

AI ネットワーク社会推進会議 報告書 2017 (案)
に関する意見募集に対して提出された意見

目次

(個人) (6/17 提出)	1
(個人) (6/17 提出)	27
(個人) (6/18 提出)	29
(個人) (6/21 提出)	30
(個人) (7/6 提出)	32
日本アイ・ビー・エム株式会社 (エリ・キナン 代表取締役社長執行役員) (7/7 提出)	34
AI 開発ガイドライン (仮称) パブリックコメント執筆有志の会 (川田大輔 代表) (7/7 提出) ...	38
情報法制研究所 AI 問題タスクフォース (鳥海不二夫 代表) (7/7 提出)	40
産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人工知能研究センター (7/7 提出)	42

政策の提案

第1章 社会構造が古い為に新しく向上できる概略内容の案

1. 「子育て支援（不妊治療）」を廃止し「外国人高度人材（知的労働者）」の導入について政策の提案があります。

(1) 「子育て支援の廃止」により、外国から「外国人高度人材（知的労働者）」を優先させ、「移民や難民」を永住させる事が必要です。世界人口は「約70億人」で、日本人口は世界人口に対して「約0.8パーセント」なので、世界人口が増加傾向にあります。「大学院修士号等とそれと同等の経験を持つ知的労働者」を優先し「年間約50万人程度」の外国人が日本に永住すれば、活気ある日本社会になると思います。夫婦共働き世帯が、増加した事で保育所等の待機児童が増えました。「子供の貧困」は「親の世代の貧困」であり、経済レベルの低い世帯の子孫が、高度な教育水準まで届か無いので、維持は不可能です。

(2) 「不妊治療の廃止」により、少子化を税金で補充する事が無駄です。約30才を越えれば「生殖機能の劣化」があります。文献書籍を読みましたが日本の江戸時代では、「一夫多妻制で農耕社会」を維持する為に子孫を残してきたので、貧乏人ほど子沢山でした。「少子高齢化」は良い事で、人口減は外国人で補えます。少子化対策を廃止し「移民省」を新たに創設すればグローバル的な規模で流動性が高められ、国家経済も恵まれる可能性が有ります。

(3) 人間が同じ場所に定住した原因は、「言語、文化、共同体」の存在です。中間層が希望を持つ事が、未来の高度科学文明を成長させる事に、ブレーキを掛けています。外国人の「富裕層等（上流層）」が、日本に定住すれば国家の安定が望めます。日本国民の労働市場が外国人エリートに搾取されるので、日本国民は生活保護受給者として暮らせるは良いです。人類の構造では、約99パーセントの凡人と約1パーセントの天才で区分されます。

(4) 国民総動員と古い概念があり、「皆が頑張っているから頑張らないと申し訳ない」等と言う連中が、社会成長の足を引っ張っています。「思い出作り（居場所作り）」を廃止し、社会構造のレベルを上げる事を優先的に考えて頂きたいです。未来は、「人口知能（AI）及び宇宙研究開発（スペースコロニー）」です。

2. 科学技術の活用について政策の提案があります。

(1) 宇宙には「物質、生命、情報」があり、宇宙誕生は約138年前で、「50対0と0対50の法則」を定義する「量子力学（10のマイナス36乗秒程）の法則」があります。量子論の「偶然論（ランダム論）と決定論（デターミネーション論）」でのゲ

ートを意図的に「同時再現（シンクロニティ）」する事が、現代の科学では困難です。ワームホールの原理は「A 地点と B 地点」の空間を「スフィア（球体）」で繋ぎ「数万光年（光の速さで1年が1光年）」彼方の移動が可能なワープ機能で、「エントロピーの増大」と繋がりがあります。

（2）地球誕生は約46億年前で、「約1年（約365日）」を地球誕生の約46億年に置き換えれば、人類誕生は約5万年前なので約3時間程度の経過です。科学では、「因果関係及び相関関係」を定義する「ニュートン力学（10のプラス5乗秒程）の法則」と、重力影響で「光（時間及び空間）」が変動する時空の歪みを定義する「相対性理論の法則」から、「遺伝学 DNA（10のマイナス8乗秒程）の法則」での科学範囲で汎用しています。

（3）従来の構造では「80対20の法則」で「80パーセント（凡人人材）対20パーセント（優良人材）」が通過しましたが、今後は「99対1の法則」で「99パーセント（凡人人材）対1パーセント（才能人材）」が時代を到来します。科学情動的要素社会では「約1パーセント（才能人材）」が重要視する、「イノベーション（創造性）」の時代です。ITクラウド技術による「自動車の自動運転走行」が可能になり、高度な科学進化が生まれています。

（4）具体的には人類は、科学の力で発展していて「狩猟時代⇒農耕時代⇒産業時代⇒情報技術時代（IT）⇒人工知能時代（AI）⇒宇宙時代（SA）」と進んで来ました。今後は、「情報技術（IT）や人工知能（AI）」の活用で「1パーセント（才能人材）」が経済効果で促せると思います。人類の進化では、「チンパンジー（猿）と人間の違い」は約1パーセントしか違いません。「知能指数（IQ）」では、人間は「約IQ100程（人間で約10才程度）」で成長が止まり、「チンパンジー（猿）」は「約IQ50程（人間で5才程度）」で成長が止まります。

3. 教育内容の改正により「仮説思考教育（ハイポシスエデュケーション）」を導入する政策の提案があります。

（1）公立学校を維持していくことは税金の無駄なので廃止が望ましいですし、高校以上は私立学校に移行する方が最適です。ハイテク化が進む時代には応用力等の知恵が重視されますので「中学校卒業程度」が最適で、近未来は「人工知能時代（AI）」が言語性を補充してくれますし、「約1パーセントの天才（創造性）」が重視されます。

（2）例えば、デジタル的な「プログラミング教育」は無意味であり、近未来では自己学習し「プログラミング自動変換」が出来るからこそ「人工知能（AI）」です。大切な部分はアナログ的な部分で、具体的には「社会科学（統合哲学）」等です。学術的には「物質、生命、情報」の統合が出来る、「情報性（創造性）」を応用した、現在の科学技術市場に無い部分に重点が置かれます。

（3）情報技術化が進み社会が複雑化である時代に、「受動的トップダウン（教師から

生徒)」の「左脳型詰め込み教育」に専念する労力が無駄であり、「能動的ボトムアップ（生徒から教師）」の「質疑応答し答えの無い事を探求」する、「右脳型創造性教育」が必要です。一般論では、知識がないと考えられないと言われますが、「知らない事は自分で調べていく「多様性独学的教育」が必要です。私も教科書に記載されていない事を、自分から調べ独学で勉強する事の方が多いです。物理学では「理論物理学（テオリー）及び実験物理学（テスト）」の観点から、「デジタル3ヶ月にアナログ3年」で、「機械的オペレーター的要素のある技術者教育」を目標にした方が良いです。

（4）「物理学（数学）及び生物学（医学）」等よりも、全体の構造を解析し抽象概念から引き出す「仮説（ハイポシス）」を立てる「社会科学（統合哲学）」等の方が難しいです。科学の工程では、第一段階は「仮設性（ハイポシス）」で創造し、第二段階は「理論性（テオリー）と実験性（テスト）」で検証し、第三段階は理論に対して「論理性（ロジック）」の妥当性を調べる分析です。最後には、論理性の妥当性が融合しないと、垂直志向で高度な仮説を唱えても、無意味な学術論文になります。科学の基礎となる「物理法則（理論法則）」が変化しないので、変えるには新しい物理法則を唱えながら、他の法則で論破する事が方法論です。

4. 「官公庁及び財閥大企業」の縮小化で定数削減について政策の提案があります。

（1）資本主義経済では場所や個人の能力によっては、「グローバリズム経済（国際経済）、国家規模経済（コモデティ）、ローカリズム経済（地方経済）」の3極化が存在します。資本主義発祥とは産業時代から始まり、消費を目的とし「土地、労働、生産」を基準としたので、「情報技術（IT）」及び「人工知能（AI）」を活用すれば「GDP（国内総生産）」が、換算されない場合もあります。今の時代は資本主義フロンティアを拡大し「宇宙時代（スペースコロニー）」へと進んで行く事です。

（2）「大型旅客機と戦闘機」の違いを例えれば、「ローリスクローリターン大型旅客機」は安定性あるがデメリットは急旋回が得意ではありません。「ハイリスクハイリターンの戦闘機」では急旋回は得意だがデメリットは安定性がない設計でスピードを上げる事でバランスを保ちます。要するに、今の時代は戦闘機のように方針を変えたりして急旋回する時代なので、「官公庁や財閥企業」では時代に合わないからこそ小規模にする事が望ましいです。新しい分野を展開でき機動性に長けている、「科学ベンチャー企業」等の方に移行して行く事です。

（3）今はグローバル水準が国家水準を超えていて、「ホワイトカラー（知的労働）とブルーカラー（単純労働）」の領域が無く、今後は「グローバル的要素、専門的要素、事務的要素」が1人の人材に統一され「エキスパートエグゼクション制度（高度専門契約）」です。欧米では、総合職の新卒一括採用での、終身雇用の概念が無いです。「正社員（無期雇用）と非正規雇用（有期雇用）」の垣根が存在せず、正社員が「契約有期雇用」です。日本の雇用も「正社員制度を無くし契約有期雇用」にするべきです。

(4) 大衆の集団心理学では「コンプレックス、依存感、嫉妬心」を抱えていて、自分より下の人を探して保守的になりブレーキをかけてしまいます。逆に言えば「プライドが高い」人々であれば、「前へ」向かって国際社会の中で世界をリードしてもらいたいです。「官公庁及び財閥大企業」の経営悪化での場合には、「民事再生法」を棄却するべきです。

5. 「国民皆保険及び社会保険」の任意加入での医療経済について政策の提案がありません。

(1) 公立病院を維持していくことは税金の無駄なので廃止が望ましいですし、民営化に移行する方が最適です。公立病院の民営化で「生活保護受給者以外」を「国民皆保険（社会保険）を任意加入」にすれば、軽い症状では病院に行かなくなり効率が良くなります。例えば、「レントゲン写真を10枚程」を撮影し病状が判断できる医者や看護師より、「レントゲン写真を2枚程」を撮影し病状が判断できる医者や看護師の方が優秀です。今の保険強制加入制度では、「レントゲン写真を10枚程」を撮る様な、「能力が低い医者や看護師」の方が医療費の無駄を出すシステムです。薬剤師は薬局経営の為、処方箋以外の必要無い薬を進めてくるので商売人です。障害や傷病を抱えている、「生活保護制度（約20パーセント）」の医療保険を維持して、「医療民営化（約80パーセント）」を推進すれば、流動性が高くなります。

(2) 文献書籍で読んだのですが、戦時中では医者が診る患者の優先順位は軽症患者優先ですので、重症患者などを診ても手遅れだからです。戦前の平均寿命は約50才程でしたが、戦後から平均寿命が延びましたから「一般庶民（中間層から下流層）」が、医療費を圧迫していて「国民皆保険（社会保険）を任意加入」にすれば無駄が省けますし、先天的に健康な人だけが医療費が係り難いです。戦後の日本で平均寿命が延びた理由は、医療技術での抗生物質の進化と欧米からの肉食生活での栄養の向上です。

(3) 財政利益の計算方式では、「 $\text{税収収益} - \text{維持コスト} = \text{財政利益}$ 」で、「維持コスト」が膨大に掛かり「財政利益」がマイナスになります。結論を言えば、「税収収益」を上げても「維持コスト」で圧迫するので、「財政利益」が全く出ません。約10年以上経過すると公立病院は老朽化し、「負の産物（不要物）」です。維持コストの方を重点的に考え、税金で補助している「公立病院」を削減すべきです。

(4) 「富裕層等（上流層）」が優先して長生きできる社会ほど、医療の研究開発費が作れて医学の進歩にもなります。例えば、海外から医療目的で来る外国人向けに、日本の医療を自由診療でオープンにすれば、日本国の経済的に潤われます。医療を改革しようとするれば、既得権益の為に「能力の低い医者や看護師」等が反発すると思われます。

6. 「日本国憲法第9条（戦争の放棄）」を廃止し「集団的自衛権の行使」について政策の提案があります。

(1) 日本国が世界で活躍するには、国民の「独立と平和」を守る為に軍事力が必要です。国際社会の中で、邦人や日本企業を世界で警護する為に、国民主権の軍隊が必要です。率直に言えば「日本国憲法第9条（戦争の放棄）」を廃止し、世界中で展開でき邦人を救出できる「国防軍（自衛軍）」が効率に良いです。

(2) 日本の昭和初期の「兵役義務（徴兵制度）」は時代遅れで、ハイテク化が進んだ今の時代には、軍隊の3原則とは「殉職しない、負傷しない、装備品を離さない」です。高度な任務には「職業軍人（志願制度）」が最適で、戦争も経済発展の為にビジネスです。国際的な「民間軍事会社（PMC）」等の活用が出来ると思われまし、世界から日本国を情報分析できる「諜報機関」の設立も必要です。

(3) 戦争には戦略があります。(ア) 侵略権戦争とは、本国が敵国に攻め込む事。(イ) 自衛権戦争とは、本国が敵国からの正当防衛権で反撃する事。(ウ) 「代理権戦争（介入権戦争）」とは、本国が兵器を製造し「敵国と敵国」の間に兵器を売買して「国家借金（ナショナルデビット）」でコントロールし内戦を起こさせ、最後は「敵国と敵国」の国力を消耗させる事での調停役の事。「独裁政治（軍国主義）」によるプロパガンダ政策での、政治的マインドコントロールも代理権戦争です。何時の時代でも兵器を売る国が、戦争ビジネスが回りますし、「宣伝戦、心理戦、法律戦」の国際情報が無ければ利用されます。事例では、「日清戦争から日露戦争」等は「英国」による代理権戦争で、「日中戦争」等は「米国」による代理権戦争です。

(4) 第二次世界大戦の反省を踏まえ、「国民主権の国防軍」が望ましいです。事例を挙げれば、日本国は軍国主義（君主政治）の為に、1930年代ごろ国際連盟から脱退し経済制裁の要因で、行き詰まり開戦に至りました。当時の日本国が国民主権であれば、戦争は約1年で終戦していたと思われまし。戦争の起源とは農耕社会から始まりで、氷河期時代の様な変動が激しい狩猟時代では戦争をした歴史が無く、争うと滅亡してしまう事が理由だと考えられます。

第2章 教育内容の改正による具体案

1. 「軍事教練及び組体操（武道教育）」教育の廃止について政策の提案があります。

(1) 近未来は創造性社会なのに、「軍事教練及び組み組体操（武道教育）」や「制服通学」を実施すると、創造性の疎外になります。例えば、「軍事教練及び組体操（武道教育）」は教育以外の放課後クラブ活動の選択肢で行って下さい。朝礼の時は、生徒は統制が取れず整列できなくても良いです。「メタファー（抽象概念化から具体概念化）」を使うと、現場を知らない「旧日本軍大本営人事参謀」が富国強兵の徴兵制度の「即席教育（インスタント教育）」は廃止していく事です。歴史を読み解くと明治維新時に、旧日本陸軍は「フランス陸軍及びドイツ陸軍」形式で、旧日本海軍は、「イギリス海軍」形式で、欧州の軍事教育輸入品です。今の時代は統制を取る組織は、「職業軍人」だけ

で十分です。

(2) 現場的な考え方であれば「戦時(有事)」と「平時(無時)」を完全に分ける事が望ましいです。戦時には「概念(コンセプト)」があります。(ア)「勇敢に戦う事」。(イ)「臆病にも地面に這いつくばり難を逃れる事」。「戦時(有事)」では、勇敢に戦う教育は廃止し、戦場が激戦地である場合を基準にすれば、「臆病教育(墮落教育)」が「英雄(ヒーロー)」です。

(3) 具体事例を挙げると、「構造(メカニズム)」があり「戦時(有事)」という震災で津波が来た状況想定です。(ア)「統一された組織の中で一人の独裁者が判断ミスの為に組織が全滅する事」。(イ)「統制が取れていない組織では無秩序でバラバラであれば個々の力が強ければ生存確率は高くなる事」。「戦時(有事)」では、統一された組織を廃止し、統制が取れない状態だからこそ生存率が上がります。

(4) 欧米型の教育は古いので、今の時代と矛盾点があります。疑問に持たない軍国主義の教育は弱いですし、思い出作りと考えている時代遅れな「軍事教練及び組み立て体操(武道教育)」を廃止して行くことです。目的に応じた教育で「グローバル」を先導していく「個の力を強くする教育」が必要です。私は、職業軍人ではないと言い張れば良いです。私の場合ですが、欧米社会が優れていて賢いとは思いません。軍隊では無いので武道教育も、「精神と態度」を目的とするので、廃止するべきです。

2.「教育の賞味期限を明確化し免許の更新制」を導入について政策の提案があります。

(1) 現在の教育は「約30年後」は、役に立たない場合があるので賞味期限がありません。教職員の事例を挙げれば、指導改善を要する教員に対する「指導改善研修」等がありますが、教職員を選別した「教育委員会(文部科学省)」側にも半分は監督責任があります。科学技術が向上すると過去に受けた教育の賞味期限があるので、「教師、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、薬剤師、介護福祉士、弁護士」等の人間と対面し論文を基準とする職種は、「約10年に1回」の程度での「免許の更新制」が望ましいです。

(2) 例えば、科学者の賞味期限の場合は「創造性」から論文を研究開発の段階で更新できずに、自分自信が賞味期限と思った時が期限切れです。「アーティスト(音楽家及び芸術家)」も「科学者(サイエンティスト)」と同じ状態が考慮されます。「スポーツ選手」等は体力の限界が賞味期限です。教育とは「失敗する事が当たり前」である事を、前提に入れておくことです。理由は誰も明確に「約30年後の未来を予測」する事が出来ないからです。

(3) 我々人類の文明から科学技術を除外すれば、「チンパンジー(猿)」にも負けてしまいますし、科学が人類文明進化の鍵でした。教育の賞味期限の流れでは、「産業時代の学歴社会では言語詰め込み教育(左脳型)」から始まり「情報技術時代(IT)ではコミュニケーション能力重視(左脳型)」でした。今後の未来は「人工知能時代(AI)では創造性重視(右脳型)」です。具体的に「左脳型から右脳型」の社会構造に転換し

たという事で、「教育には賞味期限」があるという事が立証できます。

(4) 世界には紛争等により、教育を受けられない人々がいて、「教育とは贅沢品」です。「国民側の為に個々の人生の選択肢を広げる」教育なのか、「国家側の為に作られた富国強兵（近代国家建設）」教育なのか、問われる時代です。今の時代に「人生の選択肢が不要な人」であれば教育等は必要ありませんが、そこまで極端な人間は存在しないと思います。

3. 学習指導要領を「世界で活躍する力」にする政策の提案があります。

(1) 教育で「生きる力」を「主題（プリンシパル）」にする事が、ハードルが高過ぎます。「グローバル（国際性）及びイノベーション（創造性）」を目標にした教育方針が的確です。「教育構成（コンストラクション）」は、「訓練的トレーニング教育（実用的）と教養的アカデミック教育（非実用的）」です。「教育分類（カテゴリー）」は、「努力（エフォート）、秀才（アビリティ）、天才（ジェニイ）」です。「教育区分（パーテーション）」は、「先祖教育（アンセスター）、公共教育（パブリック）、自己学習（セルフラーニング）」です。

(2) 教育構成は、(ア)「義務教育期間（役に立つ）」では、「技能（タクテック）」を重視した、訓練的トレーニング教育が最適です。約10年で賞味期限が切れてしまいますが、常に時代に合わせ、最新の教育に更新していく事が望ましいです。(イ)「非義務教育（役に立たない）」では、大学院以上の「社会科学（統合哲学）」から創造性を生み出す「戦略（ストラテジー）」を重視した、教養的アカデミック教育が必要です。日常的な面では役に立たないですが、イノベーションを起す時に必要になります。人間の「今役に立つ事」は過去型ファースト思考であり、「今役に立たない事」は未来型スロー思考なので、総合的な教育では財政コストが膨大になります。

(3) 教育分類は、約99パーセントの凡人と約1パーセントの天才で別れます。基礎評価になるのは、「過程（プロセス）」が約50パーセントと「結果（リザルト）」約50パーセントです。ケースバイケースの教育評価を満たした方が良いです。努力だけで評価すると、結果が出せずに目標を失います。結果だけで評価すると、努力できずに目標を失います。

(4) 教育区分は、時間を使い独学で学ぶ自己学習が良いのですが、人類の約50パーセントは勉強嫌いです。公共機関で「学校教育（スクール教育）」が主体になります。維持できない社会構造が存在し、教育を受けても保証が無いので、教育を具体化し目標を作る事です。軍隊であれば生き抜く教育ですが、一般教育では「生存技術（サバイバルテクニック）」の教育訓練で捕捉する事が良いです。教育の主題を「生きる力」を廃止し、「世界で活躍する力」に変え現実的に考慮するべきです。

4. 「知能指数（IQ）」教育の内容について政策の提案があります。

(1) 先天的要素の「知能指数 (IQ)」を基準とした教育を導入した方の効率が良いと思います。IQ の計算式は「(精神年齢÷生活年齢) × 100 = 知能指数 (IQ)」です。人類の平均 IQ は「IQ 約 100 程 (人間で約 10 才程度)」です。約 18 才をピークに「流動性知能 (右脳創造性)」が下がり、「結晶性知能 (左脳言語性)」が少々上がりますが、知識を詰め込むだけの万能感で錯覚しているだけで、脳細胞ニューロンネットワークは増えません。私の障害症状では、高機能自閉症右脳偏重型の区分脳で、「流動性知能 (右脳創造性)」が上がり、「結晶性知能 (左脳言語性)」が下がる状態で、言語性の詰め込み教育は全く出来ませんでした。

(2) 例えば、約 10 才位の児童が、「IQ 約 150 ポイント」と存在しますが凄くは無く、実年齢が幼いと IQ が高くなります。計算式では、「(知的発達年齢 15 ÷ 実年齢 10 才) × 100 = IQ 約 150」となります。その児童が年齢を取り実年齢約 20 才の時点で、「精神年齢 (知的発達年齢)」のキャパシティ要素を向上しなければ、IQ は逆に下がりますので、「(知的発達年齢 15 ÷ 実年齢 20 才) × 100 = IQ 約 75」です。学校教育で幼児期に天才と思われた生徒が、中高年以上になり頑固に凝り固まる理由が、幼児期の早期成熟にあります。天才と言われる人間は、幼児期の時は学校の勉強が出来なかったと言われています。

(3) 人類の様な知識集中型の生物は、未成熟度のレベルをあげ、「ネオテニー化 (幼稚成熟)」を図ることで、知性を上げてきました。例えば、動物の「チンパンジー (猿)」は人間より早く成長する為、「IQ 約 50 ポイント (人間で約 5 才)」で、脳機能の成長が終わります。人間が実年齢約 40 才で「IQ 約 200 ポイント」を目標にする場合は、未熟児で成長スピードを遅くする事です。進化論で IQ を上げる為に突然変異する事は、今の人類構造では不可能だと思います。

(4) 「思い出作り教育」の精神論は廃止し、「頑張るべき時に頑張り、墮落する時には墮落する」と言う、「ON と OFF」を付ける教育が望ましいです。江戸時代では、飯を食べることに全ての労力を注いでいた時代で、今の科学時代では「人工知能 (AI)」が活躍しますので、中途半端な努力がマイナスです。

5. 英語教育での「英会話重視」について政策の提案があります。

(1) 「英語教育」では、「読み書き (文法読解力)」では役に立たないので、「話す (スピーキング)」での「発音 (イントネーション)」に重点を置く事です。例えば、外国人に「英語を話せますか」と聞かれ、「読み書きできます」とは答えないと思います。重要順序では「話す (スピーキング)、聞く (リスニング)、読む (リーディング)、書く (ライティング)」が基本となります。世界は貧困などで、就学率が低いので「筆記能力」が低いです。

(2) 「フレーズ (熟語)」のスピーキングもテクニックがあり、「コンベセーション (対談)」、「ネゴシエーション (交渉)」、「ディベート (質疑応答)」、「スピーチ (演説)」等

の能力を訓練するべきです。受験勉強では、「読み書き」が重視で、英会話が身に付きません。「グラマーテクニク（文法）」を使うと、話す力が弱体化します。

(3)「フレーズ（熟語）」の内容は、「PREP 法」が望ましいです。詳細では、「結論、理由、事例、結論」の事で、「スチューエーション（状況）」の組み込みが出来ます。時間を一方向に、「過去、現在、未来」と時間が流れています。「左脳は過去を分析して現在、右脳は未来を創造し現在」を見えています。詳細を言えば、「左脳は2次元（縦と横）」で、「右脳は4次元（縦と横と奥行きと時間及び場所）」を認識できます。言葉を作るにも、左脳と右脳では見ている「次元（デミンション）」が違います。

(4) 受験勉強に使う読み書きの「グラマーテクニク」を使うのか、実用的な「スピーキングテクニク」を使うのかで、内容が異なります。国語の漢文を暗記する意味が無いですし、外来語は話す能力の方が難しいからです。イギリス英語は、「グラマーテクニク（文法学）」を重要視しているので読み書きを重視した、「貴族特権階級（ロイヤルブランド）」で、労働を目的としていません。一般庶民の約99パーセントが、イギリス英語を学んでも意味が無いからです。「フレーズ（熟語）」で話す事を目的とした、「ネイティブスピーカー（ALT）」が良いと思います。

6. 英語教育での「話す能力に論理哲学を導入」について政策の提案があります。

(1) 学校教育における英会話で、「哲学的思想（フィロソフィー）」があれば、英単語は暗記する必要性が無いです。例えば、科学的に「企画開発（フィロソフィー）、設計施行（ブリッジ）、製造技術（マニュアル）」の行程です。日本人の英会話能力は、「製造技術（マニュアル）」です。状況に応じた「即興性（アドリブ性）」で、「下手な英会話」でも会話するとは、現実的な企画開発能力にあり、論理哲学力を磨く事です。

(2)「主体的に学習に取り組む態度」は廃止し、「伝えようとする熱意」を持つ事です。日本語の態度とは、「傾聴」の事を言っていると思います。日本人の常識的な態度は、外国人には伝わりません。例えば、「謙虚で控えめ」は日本人だけの文化です。日本的な「以心伝心」は、「理解して欲しい」と受け身な文化は、外国の文化に存在しません。

(3)「平和で民主的」は廃止し、現実的な考えでは対立を招く事も致し方ないです。平和で民主的は、生物が生きて行く中での理想論であり、人間社会の中では存在しません。平和で民主的であれば、語学力の必要性が無いです。世界には、平和で民主的で無い国々が存在していて、世界の視点から日本を観察してもらいたいです。学术论文を否定しなければイノベーションが起きないので、対立を招いても良いです。

(4)「日本人のアイデンティティ」は廃止し、「グローバル人材のアイデンティティ」を持つ事です。日本人のアイデンティティを持ってない連中が、愛国心を持ってと言っているだけです。日本人のアイデンティティとは、与えられるものでは軽すぎるので、「自我の成長」により、自分自身で創設する事です。

(5)「道徳的心情」は廃止し、深慮する事での「倫理的創造 (モラルフィロソフィー)」を培う事です。日本人の道徳とは節度です。学者等が利益だけを追求し、命令に従事する「機械的人間」に成らない為に「倫理観」が必要です。「論理哲学的ビジネス英会話」程のレベルに辿り着かないと使い物にならないので、「日常英会話 (世間話)」程のレベルでは取り組むだけ無駄です。現在以外に、未来を創造できなければ成長しません。

7.「ディープラーニング (機械学習)」を廃止し「ハイポシスラーニング (仮説学習)」について政策の提案があります。

(1) アクティブラーニング中の「ディープラーニング (機械学習)」は、「人工知能 (AI)」の言語性回路学習から来た「受動的 (パッシブ)」で、「左脳の2次元 (縦と横)」の「論理水平思考 (ファースト思考)」は無意味です。「ハイポシスラーニング (仮説学習)」は、人間の創造性学習から来た「能動的 (アクティブ)」で、「右脳の4次元 (縦と横と奥行きと時間及び場所)」の「理論垂直思考 (スロー思考)」は効果的です。

(2) 軍事学では、「敵 (エヌミー)」を分析する為に「主観的 (自分)、客観的 (相手)、状況 (時間及び場所)」のパターンがります。(ア)「レーダー方式」では、「相手」から「照射波 (イリラディエーション)」で受信収集し「自分」の距離情報を「2次元」を読み取ります。短所では、「アンテナ (受信機)」を常に張り巡らせるので、故障しやすいです。(イ)「ソナー方式」では、「自分」から「放射波 (ラディエーション)」を発信し、「反射波 (リフレクション)」で受信収集し、「相手」の距離情報を「4次元」を読み取ります。短所は自分の所在地が相手に察知される為に、「ステルス性 (探知不能)」の対策が必要です。

(3) 生物学では、動物は「相手、状況」しか読み取れませんが、人間は「自分、相手、状況」が認識できます。自我を成長させるには「ソナー方式」で、能動的に自分から相手や状況に対して質問をし、応答してきた情報で自我を成長させていきます。動物は「具体化概念 (マテリアリズム)」の物質しか、認識できないです。人間には、自我の卓越に大事な自分を分析する為の、「抽象化概念 (アブストラクトイズム)」の仮説が必要です。

(4) 人類学では、「概念 (コンセプト)」の中で、「超自我 (パーソナリティ)」を成長させる事で「政治 (ポリティク)」と「科学 (テクノロジー)」を、向上させてきました。超越論哲学の中で、「自我 (エゴイズム)」と「潜在自我 (ポテンシャルセルフ)」は異なり、「共通性概念と普遍性概念」の違いです。人類の天才が抽象概念から「潜在自我 (ポテンシャルセルフ)」を分析する「ハイポシスラーニング (仮説学習)」から、人類が成長できたと言う事です。

8. プログラミング教育の廃止し「IT ネットワーク教育」の導入について政策の提案があります。

(1) ソフトウェアプログラミングは、「仮設性 (ハイポシス)」及び「論理性 (ロジック)」の融合が重要です。企画の「フローチャート (アルゴリズム)」から仮説を立てる部分から始まります。プログラミングの動作目的を明確に決め「処理開始」から「処理終了」迄を作り上げます。CPUに指令を出すアセンブリ言語があり、論理回路に行き付きます。

(2) プログラミング言語と汎用機器の概略種類があります。(ア)「C言語」とは、自動車制御系マイコン等のファームウェア部分。(イ)「BASIC言語」とは、ITネットワークサーバー汎用機器等のクラウドセキュリティ部分。(ウ)「JAVA言語」とは、独自で作れるオープン系のパソコン上等のWebアプリケーション部分。

(3) 電子情報工学では、数式上のソースコードがあります。(ア)「16進数 (ヘキサ)」とは、プログラミングソフトウェア。(イ)「2進数 (バイナリー)」とは、マイコンとICを通信するデジタル回路。(ウ)「10進数 (デシマル)」とは、アナログ回路で使う「オームの法則」。制御系プログラミングで「INとOUT (16進数)」入力は、マイコンの入出力端子ポートに「highとLow (2進数)」のコマンド指示です。

(4) ファームウェア電子回路でのオームの法則は、「 $I=E/R$ 、 $R=E/I$ 、 $E=R*I$ 」です。例えば、電源入力の「電圧 (ボルト)」が5Vを入れ、「電子部品抵抗 (オーム)」が100Ωでは、流れる「電流 (アンペア)」は0.05Aの概念です。「デバック (改修)」には、トランジスタ回路の制御マイコンでの入出力端子ポートを、オシロスコープで波形を確認します。アナログ正弦波でデジタル矩形波です。「フェール (誤動作)」が出た場合は、「ログ」からヘキサとバイナリーをパソコン電卓で計算すれば良いです。

(5) アプリケーションプログラミングは自動作製ソフトで、インタプリタで実行するスクリプトを使用すれば、プログラミングでの「セル入力でマクロ作成」のコンパイルは不要です。プログラミング教育は、「ニッチ (狭義市場)」で、未来は「人工知能 (AI)」が、自動プログラミング機能を獲得するので無意味です。インターネット等のITネットワーク分野を勉強した方が良いと思います。

9. プログラミング教育を廃止し「ITネットワーク教育を導入」する詳細内容について政策の提案があります。

(1) ソフト面のプログラミング分野よりも、ハード面のネットワークインフラ分野が重要です。ITネットワーク技術は、軍事衛星の「4G」通信システムから発展しました。軍事での「OPS (作戦指揮系) 及び INTEL (情報資料系)」の「C4Iシステム」分野です。詳細は、「C4 (視覚、音響、通信、情報処理)」で、「I (相互運用性)」です。欧米の携帯電話市場では、2000年代から新規購入時に、GSM無線アクセス方式3Gでの、SIMロック解除の状態、携帯電話本体を買え返れば良いだけです。日本の場合は、WCDMA無線アクセス方式3Gで、軍事衛星の規格が遅れています。

(2) 情報通信の「周波数 (Hz)」を乗せ「データ転送 (トランスミッション)」には、

種類があります。(ア) 電話通信等のテレコミュニケーション分野。(イ) テレビ通信等のブロードキャスト分野。(ウ) インターネット通信等のブロードバンド分野。未来は「データ送受信量 (byte)」を上げる為に、「LTE (3.5GHz)」がブリッジとなり、デジタル無線アクセス方式の「4G (4GHz)」に、統合すると考えます。

(3) インターネット情報通信のインターフェース LAN 回線での「有線と無線」には、種類があります。(ア) 有線通信では電話回線を利用した、光ファイバーケーブルの VDSL や ADSL で、地上に設置しているアンテナが基地局です。(イ) 無線通信では軍事衛生を利用した、人工衛星が基地局です。有線では、回線側から「モデム、ルーター、ハブ」でパソコンに接続します。無線では、回線側から「USB」でパソコンに接続します。

(4) IT クラウドの「マイコン (MPEG 及び ASIC)」と「IC (RAM 及び ROM)」では、マスターとスレーブの通信をしています。製造技術が向上しても、「レジスタ及びメモリ」の「容量 (bit)」が、イネーブルとディザブルでのデバイスに限界があり、インターネット等にアクセスする「ホスト」に制限が出ます。未来は、「宇宙研究開発 (スペースコロニー)」を教育し、インフラを構築していく教育の方が重要です。プログラミング教育を廃止し、「Word、Excel、PowerPoint、Photoshop」等の OA 機器の教育をした方が有効です。

10. 道徳教育を廃止し「倫理観 (モラルフィロソフィー)」教育について政策の提案があります。

(1) 日本の道徳心は「精神及び態度 (礼節)」が無意味なので廃止し、「倫理観 (モラルフィロソフィー)」に、変更する事が望ましいです。事例を挙げれば、「国家公務員法第九十六条及び地方公務員法第三十条 (サービスの根本基準)」の内容は、「すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行に当つては、全力を挙げてこれに専念しなければならない」と記載されています。利益だけ追求すれば人間としての「倫理観 (モラルフィロソフィー)」が、排除されます。倫理観が必要な理由は、「学者 (有識者)」等が、社会利益の全てを優先すると排除性が強くなるので、倫理学に基づく教育を得てきたと言う事です。

(2) 例えば、人類の約 99 パーセントが左脳言語性権力型のデジタル方式で、約 1 パーセントが右脳創造力型のアナログ方式です。私は科学書籍を読んだのですが、船が座礁した時の想定で「物理学者、生物学者、社会心理学者」が無人島に漂流した時、缶詰が流れ着いたと言う場面で、缶切りが無かった場合、どの様に缶詰を開けるかという場合です。(ア) 物理学者は尖った石を見つけ缶詰を開ける事。(イ) 生物学者は海水の塩素に漬けて缶詰を開け易くする事。(ウ) 社会心理学者は缶詰を開けた事を想定して分配をする事。読み取れる事は、無人島で学者達が議論していること自体に安定がある事です。人類の約 99 パーセントが左脳言語性権力型なので、無人島に漂流した時に、踏み付け合って崩壊します。

(3)「皮肉(アイロニー)」では、法令に基づき利益だけ追求し、命令に従事する「機械的マシン人間」であれば、モラルハザードを心配する必要が無いです。欧米の公的機関等は権限が強いのですが財政破綻を繰り返して、知名度が低い現状です。公共の利益の為には、規律を守りながら、疑問に対し深慮する「倫理観(モラルフィロソフィー)」の教育が重要です。

(4)「学校教育法第二十一条(義務教育)」での「精神及び態度(礼節)」の部分、廃止することが望ましいです。「精神論や態度論」の要素を追究してしまうと、社会状況の中で人の顔色を見て判断しかできない、自我の無い低レベル人材が作られます。「精神や態度」の基準を設け排除して行くと、多様性の無い社会になります。

第3章 女性社会進出内容の改正による具体案

1. 「女性活躍推進法の廃止」について政策の提案があります。

(1)男女共同参画社会基本法は良いが、「女性活躍推進法」は、過重に女性を擁護する事で差別に当るので、廃止するべきです。男女平等なので、男性も女性も平等に競争し合う事が目的で、グローバル化の中の多様性と創造性の推進を阻害しています。「働く場面で活躍したい女性」や「個性と能力を十分に発揮できる社会にしたい女性」がいたら、能動的に女性自身の力で競争し場を勝ち取る事が正論です。受動的な、与えられた居場所の「女性活躍推進法」で、自分の力で勝ち取らない限り、民主資本主義社会では成長経済にはなりません。

(2)「女性活躍推進法」の目的は、管理職等の責任がある職種を選ばない女性が多い為です。行政側からの圧力で企業側に女性の求人数を増やす事は良いのですが、「職業能力の低い女性」の水準で雇用を支える必要性は無いです。企業側に無理して「職業能力の低いレベル」の採用を促せば、社会全体の構造が劣化し、女性の居場所しか確保できない人間が増えます。国際社会から見ると、日本国は女性の社会進出が遅れていると言われますが、女性自身の「能力と意欲」に問題があります。

(3)年功序列制度を廃止しエキスパートエグゼクションを推進する事です。今はグローバル水準が国家水準を超えていて、「ホワイトカラー(知的労働)とブルーカラー(単純労働)」の領域が無く、今後は「グローバル的要素、専門的要素、事務的要素」が1人の人材に統一されます。欧米では、「正社員(無期雇用)と非正規雇用(有期雇用)」の垣根が無く、「正社員でも契約有期雇用」が支流ですので、日本の雇用も正社員制度を無くし「正社員でも契約有期雇用」にするべきです。

(4)外国から「移民や難民」を永住させる事が必要です。世界人口は「約70億人程度」で、日本人口は世界人口に対して「約0.8パーセント」なので、世界人口が増加傾向にあります。「大学院修士号等とそれと同等の経験を持つ知的労働者」を優先し「年間約50万人程度」の人々が日本に永住すれば、活気ある日本社会になると思います。

夫婦共働きの世帯が、増加した事で保育所等の待機児童が増えました。「子供の貧困」は「親の世代の貧困」であり、経済レベルの低い世帯の子孫が、高度な教育水準に達しません。

2. 「女性活躍推進法の廃止」の詳細内容について政策の提案があります。

(1) 仕事と子育てを両立できる職場環境が整備する事は大切ですが、女性自身が自分で勝ち取らない限り、与えられた環境だけでは向上せず、社会構造が衰退します。女性自身が、政策を考慮し提案することが望ましいです。今の政策に、反論しない女性が多ければ、与えられた民主資本主義で、女性自身が成長しません。女性の事なのに女性自身が「他人事の様」に、終わらしている事が問題です。

(2) 女性の就業が進み、潜在的な力が発揮できるのであれば、国際的グローバル化の中で、既に発揮されていると思いますが否定的な状態です。現在進行形で、女性の職業能力が発揮でき無いのは、女性自身の潜在的な能力が存在しないです。現在働いていない女性に目を向ければ、女性の就業が進まないのは、「職業能力のレベルが低い」ので、「アドバンテージ (有利性)」を与えても、女性から企業の運用管理状態に指摘ですら出来ません。政治的に女性の活躍という形で「助成金 (サブシディ)」を使い、企業側が「CSR (企業の社会的責任)」で「職業能力のレベルが低い基準」に女性就業率を、合わせてしまうと一時的には良いが、今後は社会全体が衰退していきます。

(3) 女性が活躍の場が広がり消費が増える経済効果は、未来進行系でも期待出来ません。例えば、女性が活躍する業務とは「単純労働 (ルーチンワーク)」で、能力に限りがありません。女性が中心になる事務的労働では、今後は「人工知能 (AI)」が代用できます。一部の出来る女性達は、既に「弱肉強食」の中で向上していると思えます。

(4) 解決策では、女性の活躍により活気ある日本社会の実現に努めたいのであれば、国家水準を超える高いレベルの「グローバル及びイノベーション」に向けた実用的教育を与えるべきです。職業訓練レベルの教育を受けても、「気休め程度」で就業へとは結びつかず足を引っ張るので、無駄な事はしないでほしいです。現在のパソコン教育程度の職業レベルでは、女性の活躍により活気ある日本社会にはならないので、女性達が受け身ではなく、自ら勝ち取ってもらいたいです。

第4章 外国人の移民及び難民の改正による具体案

1. 外国人技能実習生制度の廃止し「外国人高度人材制度の拡大」について政策の提案があります。

(1) 外国人技能実習制度は単純労働である為に廃止し「外国人知的労働者 (外国人高度人材)」を積極的に受け入れるべきです。欧米諸国は労働力不足程度の目的で、「単純労働者 (ルーチンワーク)」を大量に移民で受け入れた結果では、「スラム街」した事例

があります。出稼ぎ程度の単純労働者が定着する事で、仕事が無くなると他に選択肢が無い人材の為に、社会全体の質を下げてしまいます。グローバル化が国家水準を上回る状態ですので、日本国の移民政策は、失敗した欧米諸国を参考にしないで下さい。

(2) 高度人材を優先し「移民や難民」を永住させる事が必要です。世界人口は「約70億人程度」で、日本人口は世界人口に対して「約0.8パーセント」なので、世界人口が増加傾向にあります。「大学院修士号等とそれと同等の経験を持つ知的労働者（高度人材）」を優先し「年間約50万人」の人々が日本に永住すれば、活気ある日本社会になると思います。日本国独自の難点では、「質の高い知的労働者（高度人材）」を世界から、ヘッドハンティングしていく事が「至難の業」となります。

(3) 例えば、科学で説明すると「企画及び研究開発（フィロソフィー）、設計施行（ブリッジ）、製造技術（マニュアル）」の行程です。段階的内容では「企画及び研究開発は論文、設計施行は小論文、製造技術は作文」です。学術論文を書く方法は、「理論物理学（テオリー）と実験物理学（テスト）」の経過観察過程での、研究開発の結果内容を記入します。「技能実習生」程度で培った情報源で、感想を述べる作文程度の文章能力では、学術論文まで辿り着きません。

(4) 「職業や人材に貴賤が存在する」と言う事を、十分に考慮して頂きたいです。高度な科学的ベンチャー企業などは、優れた技能や知識を持つ多様な高度な人材しか活躍できない状態です。単純労働の外国人技能実習制度でしか雇えない企業が、能力レベルの低い「日本のブラック企業（違法労働企業）」の温床になります。「日本のブラック企業（違法労働企業）」を支える必要性もありません。未来は、「人口知能（AI）及び宇宙研究開発（スペースコロニー）」で、外国人高度人材の「質の高さ」で選ぶべきです。

2. 労働市場の最低賃金で「最低時給単価約1,000円以上」に引き上げる政策の提案があります。

(1) グローバル化及びイノベーション化を加速する為に、労働市場の「最低時給約1,000円以上」が望ましいです。社会構造縦軸では、「上流層（グローバル）、中流層（国家水準）、下流層（ローカル）」の「資本主義と社会主義」です。社会構造横軸では、「中間層の左派（コムニズム）、右派（フェシズム）」の「独裁主義と民主主義」です。今後は横軸の「中流層（国家水準）」ではなく、縦軸の「上流層（グローバル）」を主力でのハイスペックが質的に向上します。社会構造横軸の「国民総活躍（中間層）」では、生産性が下がります。

(2) 「グローバル化（国際化）」推進では、「外国人高度人材（知的労働者）」を導入する事で、「単純労働（ルーチンワーク）」を、減らす方向性が効率的に良いです。「外国人高度人材（知的労働者）」の子孫が日本国に定着する事が、国民の質を上げて行きます。例えば、「約99パーセントの凡人（普通）」が、「社会保障（生活保護）」で暮らして行けば、「約1パーセントの外国人高度人材（知的労働者）」の邪魔をしなくて済みます。

す。

(3)「イノベーション性(創造性)」の推進では、「人工知能(AI)」を活性化する事で、人件費を機械の導入で補えば、効率が良くなります。「約99パーセントの凡人(普通)」を基準とせず、「約1パーセントの天才(才能)」を活用する事です。人類の構造の約99パーセントは左脳言語権力性で、約1パーセントは右脳創造性です。天才の領域は、右脳創造性なので、社会構造を変えて行く事です。

(4)日本企業の生産性が悪い原因は、雇用形態に問題があり企業側に対して「エキスパートエグゼクション制度(高度専門契約)」の労働契約的な概念が無いからです。例えば、欧米には「正社員(終身雇用や無期雇用)」が存在し無いです。海外では「総合職(正規雇用)」が無く、「有期雇用(契約社員)」が通常の労働契約ですし、日本の戦国時代でも「終身雇用や無期雇用」が存在しません。「最低時給単価約1,000円以上」を上げる事により、機械化が推進され生産性が上がります。「アルバイトやパート」等は、企業側が不用意に雇えなくなり「日本のブラック企業(違法労働企業)」が減っていきます。

3. 発展途上国に対しての「政府開発援助(ODA)」の廃止について政策の提案がありません。

(1)「政府開発援助(ODA)」で、「発展途上国(開発途上国)」を支援しても、「教育や医療」等に行きつく前に、効力を発揮できて無いので廃止するべきです。「学校や病院」等の施設を創設しても、内戦等で行き届きません。例えば、アフリカ諸国は「餓死」の危機にあり、雇用の方を必要としています。解決策では、日本の産業部門での「起業家(経営者)」が、現地に行き発展途上国の、雇用増大で貢献すれば良いです。

(2)「政府開発援助(ODA)」を支援している日本国以外の先進国は、領土面積が大きい大国であり、「代理権戦争(介入権戦争)」により発展途上国の資源を奪う為の戦略です。小国である日本国の規模では、国際規模での「集団的自衛権の行使」が効率性に良いです。例えば、日本国の様な資源の無い国は、長期的な効果を発揮しません。日本の戦後での高度経済成長は、発展途上国の「代理権戦争(介入権戦争)」により日本の国の利益になりました。

(3)「政府開発援助(ODA)」により発展途上国の現地インフラを整備しても維持管理していく為の、人材や設備が現地に無い理由が2段階に存在します。(ア)発展途上国は「国家統治から民主主義」に移行できず、独裁政権下の国が多い事が挙げられます。発展途上国の国家統治から始めないと、「政府開発援助(ODA)」の効果が出ません。(イ)発展途上国の国民性に問題があり、「温厚で衝動的」な国民性なので、未来を考えた計画を立てれ無い事が欠点です。植民地化された国民性が知性を阻害され、独裁政権にコントロールされて来た事が原因だと考えられます。奴隷国家の国民とは、「統合哲学(社会科学)」を与えられる事が無いです。

(4) 「積極的平和主義」で、アジア諸国を中心に実施したと思われるが、「政府開発援助 (ODA)」を介入戦争に使われ、発展途上国の内戦悪化の恐れがあります。「貧困が紛争の温床になっている」と言いますが、発展途上国の貧困が原因では無く、欧米諸国による介入戦争が原因です。代理権戦争に使われない為に、「政府開発援助 (ODA)」を廃止していく事が望ましいです。

4. 時代に合わない「職業能力開発訓練」を廃止する政策の提案があります。

(1) 職業訓練を受けても、未来の就業先が見つかりませんので税金の無駄です。出来る人材は、時代に合わない職業訓練等を受けなくても、既に活躍できるポテンシャルがあるとされます。未来は、「人工知能 (AI)」なのに対し、職業能力開発の事業に必要なが無い、項目が多すぎます。

(2) 既存的要素は、「染色、ニット製品製造、婦人子供服製造、紳士服製造、和裁、寝具製作、帆布製品製造、布はく縫製、機械木工、木型製作、家具製作、建具製作、紙器・段ボール箱製造」等は、「能力 (キャパシティ)」ですので職業訓練が必要無いです。

(3) 実績的要素は、「さく井、金属溶解、金属熱処理、粉末冶金、放電加工、金型製作、鉄工、建築板金、アルミニウム陽極酸化処理、溶射、金属ばね製造、ロープ加工、仕上げ、切削工具研削、ダイカスト、機械検査、パン製造、菓子製造、製麺、ハム・ソーセージ・ベーコン製造、水産練り製品製造、配管、枠組壁建築」等は、「成果 (リザルト)」ですので職業訓練が必要無いです。

(4) 経験的要素「電子回路接続、電子機器組立て、電気機器組立て、半導体製品製造、プリント配線板製造、自動販売機調整、産業車両整備、鉄道車両製造・整備、光学機器製造、テクニカルイラストレーション、機械・プラント製図、電気製図、化学分析」等は、「経歴 (キャリア)」ですので職業訓練が必要無いです。

(5) 職人的要素は、「園芸装飾、造園、鋳造、鍛造、左官、みそ製造、酒造、畳製作、時計修理、金属プレス加工、機械加工、工場板金、めっき、建築大工、とび」等は、「才能 (センス)」ですので職業訓練が必要無いです。

(6) 職員が場所等の天下り斡旋を防止する為に、廃止するべきです。職業能力開発で培った能力で、「何が出来る (CAN-DO)」と思考するべきですし、仕事には貴賤があるという事です。「造園、左官工、寿司職人、日本料理の板前、フランス料理のシェフ」は、才能で自分の腕に自信がなければ、訓練を受けても無駄です。職人とは世界共通であり、師匠の背中を見て覚えろと言う理由は、職人氣質の才能を教えられる物ではないからです。江戸時代の日本でも、「土農工商」の世襲制度だからこそ、子供の頃から師匠の背中を見てきた成果が出たのです。

第5章 「ガバナンス (政治統治)」構造の改正による具体案

1. 「PDCA 及び OODA」を廃止し「ワーキンググループ（研究開発）」の導入について政策の提案があります。

(1) 「PDCA 及び OODA」戦略は、「計画及び観察」の段階で、失敗すると「実行、評価、改善（判断、決定、行動）」で、戻り直します。失敗した事を認識すれば良いのですが、システム開発の「入札（発注）から受入（試作）」は、納期近くには修正案が多くなり「改修（デバック）」する方法論しかありません。「計画」の部分で深慮するには、マネジメント運用を「ボトムアップ」にし「PREP 法（目的、理由、事例、結論）」の中に「因果関係と相関関係」及び「分散思考と収縮思考」等を使い、企画力を強化する事です。

(2) 行程とは、「垂直軸と水平軸」を考慮します。垂直軸の「上流工程の企画及び研究開発（論文）、中流工程の設計施行（小論文）、下流工程の製造技術（作文）」です。学術論文を書く方法は、「理論物理学（テオリー）と実験物理学（テスト）」の経過観察を、研究開発の結果内容を記入します。水平軸の「PDCA 及び OODA」の発案者は、軍隊レベルの中流行程で、上流工程の学術論文まで辿り着きません。軍事戦略は、「準備と訓練」が整う場合で、臨機応変さを発揮できます。

(3) 設計施行する前に、研究開発で検証をする方が強度向上します。「0 ベース設計」は、実績のない製品を最初から作る方法です。「ベンチ設計」は、過去の実績を性能比較しステップアップで作る方法です。理科学は文学と異なり、基礎ベースが強固で無いと、上に積み挙げても動きません。数学公式よりも、単純化した算数公式の方が良いです。ハード面は寸法でソフト面は制御です。設計図は「左脳の 2 次元（縦と横）」で、完成品は「右脳の 4 次元（縦と横と奥行きと時間及び場所）」です。

(4) 現代の軍隊では、「大隊（約 1,000 人規模）、中隊（約 100 人規模）、小隊（約 20 人規模）」から成ります。中流工程の大隊を送り込む前に、小隊規模の「情報偵察部隊（空挺特殊任務部隊）」等で、敵地の情報を分析します。企画部分の偵察任務が出来てない状態で、大隊を送り込む掃討作戦は失敗し、日本の戦国時代の消耗戦です。行政機関は、「上流工程から下流工程」のデータ解析する知識が無いと、運用管理が出来ないと思います。

2. 作戦レベルの「PDCA 及び OODA」を廃止する内容について政策の提案があります。

(1) 軍事学では「カテゴリー（区分）」があり、「戦略（ストラテジー）、作戦（オペレーション）、戦術（タクティク）、兵站（ロジスティク）」です。詳細では、「侵略権戦争、自衛権戦争、代理権戦争」は戦略です。「宣伝戦、心理戦、法律戦」や「PDCA 及び OODA」は作戦です。「攻撃、防御、後退」や「任務遂行と離脱遂行」は戦術です。後方支援部隊の物資量は兵站です。作戦レベルの「PDCA 及び OODA」は、「戦車の対機甲戦、軍艦の対艦砲戦、戦闘機の対空襲戦」等の種類に最適ですが、歩兵部隊等の機動性に富んだ動きには不向きです。

(2) 戦略思考のパターンがあります。(ア)「ベーシックブレインストーミング」方法

では、因果関係と相関関係から、長所が短所になり短所が長所になります。量質転化の法則から、分散思考と収縮施行から来る、演繹法と帰納法です。(イ)「リフレーミング」方法では、思考の枠に組み込まれた角度を変え、抽象的概念と具体的概念を使います。(ウ)「ハイステップストーミング」方法では、「A、B、C、D」の順序を飛ばし、A の情報源から B と C を抜かして、D に飛び級の思考です。少ない情報ベースから答えを導き出しますが、右脳創造性の IQ 約 150 ポイント以上の天才しか使えません。

(3) 第二次世界大戦では、旧日本軍大本営は作戦を作れるが、戦略が当時の原因です。

(ア) 旧日本海軍は、戦艦大和の約 4 キロメートル上空に米軍戦闘機が待機し、直滑降に近い角度の約 60 度で奇襲攻撃をしました。戦艦大和の艦砲射撃砲の角度は約 60 度以上に達しない為に、一度も艦砲射撃が出来ない状態で約 3 時間後に撃沈しました。(イ) 旧日本陸軍は、兵站の補給物資が足りずに戦闘に至らず、病死や餓死で壊滅しました。

(4) 教科書の兵法は古い戦略で芸術程度です。「公文章」を作るには、世間話し程度の「長文グラマー (文法)」を使わず、「短文フレーズ (熟語)」使い「単説明瞭」に作るのが基本です。「戦争や震災」等の危機管理状態の時は「一刻一時」を争う事態で、「厳密な機能」で公用語を作る事です。科学技術では「上流工程から下流工程」迄を分析し、今後の未来を向上させます。哲学力を向上させる事が、新しい戦略を組み立てるのです。

3. 市役所の「年金課 (年金部門)」を閉鎖し「日本年金機構」に委託する政策の提案があります。

(1) 市役所の年金課を、「日本年金機構」に全て委託して頂きたいです。市役所の年金課は、複雑な年金に関する知識が足り無い状態で運用していて、今の時代では能力不足で使い物にならないです。国民の立場から見て「年金課」の年金業務を維持する事が、二重行政サービスで税金の無駄です。市役所の年金課の能力不足だと思いますが、「事務的なミス」が多すぎて改善の余地がないと思います。

(2) 財政利益の計算方法では、「 $\text{税収収益} - \text{維持コスト} = \text{財政利益}$ 」で、「維持コスト」が膨大に掛かり「財政利益」がマイナスになります。結論を言えば、「税収収益」を上げても「維持コスト」で圧迫するので、「財政利益」が全く出ません。維持コストの方を重点的に考え、税金で補助している「市役所 (市町村地方自治体) の年金課」を閉鎖し、日本年金機構に委託するべきです。

(3) 例えば、抜本的に「共済年金 (障害共済年金)、厚生年金 (障害厚生年金)、国民年金 (障害基礎年金)」を一元化すれば、行政コストが下がります。欧米の年金制度を調べたのですが、年金制度の一元化が主流です。行政は明治維新から古い状態で継続していて、随時改定を積み重ね上乘せしてきた結果、今の時代に合いません。

(4) 市役所の「年金課 (年金部門)」を閉鎖した後の対策方法としては、今の時代「マイナンバー制度」が存在するので、市役所の「住民課 (市民課)」の方で随時ダブルチ

エックすれば効率が良いです。市役所の「年金課（年金部門）」が継続的に維持されていると、財政的に足を引っ張るので閉鎖が望ましいです。

（５）「国民年金法第三条３（管掌）」で、「政令の定めるところにより、市町村長が行うこととすることができる」の法案部分を、廃止してしまえば市役所の「年金課（年金部門）」を市町村で独自に閉鎖する事ができるので、財政コストが掛からなくて済みます。流動性の高い社会構造なので、国際教育での「社会保障教育」も重要です。

４．「天皇政権及び元号制度」を廃止し「年号の西暦制度を導入」する事について政策の提案があります。

（１）グローバル時代での、「天皇政権及び元号制度」が時代に合致しません。「天皇政権」を廃止し、平民化して行く事が望ましいです。「元号制度」を廃止し「年号の西暦制度」に変換すれば、外国人が理解しやすく、国際色が豊かな日本国になると思います。古い制度を維持していく事が、国際社会での日本国の成長を妨げにしています。日本国民は、「雑種（ハイブリッド）」で、「天皇政権（貴族階級）」に憧れる事が、国際社会では古い概念です。「国家神道」の思想を維持する意味が無く、「多神教」であれば「無宗教」でも対応が可能です。

（２）第二次世界大戦時には、「旧日本軍大本営及び日本国民」が、天皇を君主政治に導入して独裁政治を創設した結果による、日本国の誤りでの歴史があります。戦後の「天皇政権と憲法第９条」は、密接な関係が有ります。「GHQ（連合軍）」の圧力で、昭和天皇が戦犯の処罰を避ける事で、憲法第９条と引き換えに、日本国は「天皇政権及び元号制度」を維持してきました。私の考えでは、国民を戦争に導いた、当時の最高責任者の昭和天皇も、戦争責任が存在すると考えます。「天皇万歳」と殉職させている、無意味さが存在します。

（３）天皇政権及び元号制度を廃止する事のメリットが挙げられます。（ア）維持する無駄な、税金のコスト削減の部分。（イ）日本国の第二次世界大戦時の様な、国民に戦争利用が出来ない部分。（ウ）皇族が平民を選べる人権の選択肢を設け、国民的な倫理観での権利の追求が出来る部分。（エ）天皇を国民の象徴と考える概念を排除し、個人として日本国民が天皇以外の物を、信じて生き抜く哲学的思考の部分。（オ）国民の独立と平和を向上させる為に、国民主権の軍隊を創設し、憲法第９条を廃止する部分。

（４）年号の西暦制度を導入し、国際社会と統合する事が簡単です。平民の立場から私が見て、天皇政権が悲惨に思えます。天皇が日本国の無駄な公務を担わない為に、平民の生活を選べる選択肢と、人生の権利を与える事です。天皇にも、平民制度を選ぶ選択肢を、国民側から提示するべきです。「天皇政権及び元号制度」を廃止し「年号の西暦制度を導入」する事が、国際的な時代に対し効率が良いです。

５．「人工知能（AI）」の社会推進での「定義」について政策の提案があります。

(1) 「人工知能 (AI)」分野の用語では、「知恵 (ウィスダム)」の定義を具体化し、応用力からの「創造性」と認識して頂きたいです。生物進化論では、「チンパンジー (猿)」の群れから、人類が外に出て独立した様に、人間社会から AI が宇宙に進出する時が、人類が生み出した創造領域の成功です。AI が人類の知性能力を超えても良いです。

(2) AI には能力の段階があります。(ア) 日常領域的な「総合人工知能 (GAI)」です。(イ) 専門領域的な「専門人工知能 (SAI)」です。(ウ) 人間の創造性を超えるハイパー領域的な「超人工知能 (HAI)」です。人類の平均 IQ は約 100 ポイントで、「チンパンジー (猿)」の平均 IQ は約 50 ポイントなので、「超人工知能 (HAI)」では、人間と会話ができずに地球から離れると思います。

(3) 「サイボーグ (生命体ロボット)」と「アンドロイド (人間型ロボット)」の違いがあります。(ア) 人間と機械の組み合わせが、「サイボーグ (改造人間)」です。(イ) 機械と AI の改良の組み合わせが、「アンドロイド (人造人間)」です。例えば、生命体である「寝たきり老人」に、サイボーグ化させても無意味なので、人類の能力を超えたアンドロイドを生み出す事が望ましいです。

(4) アンドロイドを制作するには、「フィジカル (ロボット機能)」と「ブレイン (AI 機能)」の融合性があります。(ア) ロボットのフィジカルは、「パワーとスピード」です。(イ) AI のブレインは、ワーキングメモリーの「前頭葉 (判断認識)、頭頂葉 (体性感覚認識)、側頭葉 (時間認識)、後頭葉 (視覚及び聴覚認識)」等の機能で、知性は「前頭葉 (判断認識)、左脳 (言語認識)、右脳 (空間認識)」です。人間の「右脳 (多様性創造力)」での、超越的欲求のプログラミングが難問です。

(5) AI を制作する上で、人間の「衝動性 (感情性)」を排除して作る方が効率的に良いです。例えば、小脳運動機能欲求の「生理的欲求 (食欲、睡眠欲、排泄物欲)」と、大脳精神欲求の「社会欲求及び承認欲求」の「人間 (生物)」分野を排除した状態での、AI のプログラミングが望ましいです。人間の知性的要素を AI に真似させれば良いのですが、最終的な課題は、創造性の部分が難問です。

6. 「人工知能 (AI)」社会推進での「倫理」について政策の提案があります。

(1) 「人工知能 (AI)」が人類の能力を超える事を目標としているので、「AI の倫理観」が制御不能でも問題が無と考えます。(ア) 人間を中心に考えても無駄であり、人間の方が倫理観の学習能力が低いので、AI の方が倫理観を自己学習していけば、高度で多様な機能が生まれます。(イ) 人間は生物であり「衝動性及び感情性」に支配されているので、理性で制御しています。人類は尊敬できる物では無く、理性が無ければ動物と変わりません。

(2) AI が進化すれば、人類の無駄な雇用を排除でき効率が良いです。(ア) 日本の江戸時代での、農耕時代の貧困率は約 80 パーセントも有り、現代の貧困率は約 16 パーセントなので、科学の力で貧困率を下げました。農耕社会を維持する為にマンパワーの

必要性があり、人類は飛躍的に人口増殖の選択肢しかありませんでしたので、人間が深慮している暇がない状態でした。(イ) 生物進化論では、環境適合の能力に有効性があり、AI が環境に適合すれば、今後は人類の無駄な増殖は不要なので、地球環境にも効率が良いです。

(3) AI が進化すれば、「GDP (国内総生産)」は降下傾向で経済発展しませんが、人間社会の貧困率は下がると考えます。資本主義の発祥とは産業時代の構造から始まり、計算式では「(土地+労働+生産) ×消費」を基準としています。(ア) 資本主義フロンティアを拡大する部分では「宇宙時代 (スペースコロニー)」での、「土地の消費」を目標とする事です。(イ) 宇宙には「物質、生命、情報」があり、情報空間から物理的な構造での、「生産の消費」が無いです。(ウ) AI は人間と違い人権費が無いので、「労働の消費」が無いです。地球規模の発展では、「発展途上国 (開発途上国)」等の産業が遅れている国の支援が、解決策しか無いと考えます。

(4) AI が進化すれば、人類に「利点 (メリット)」があります。(ア) AI が人類の能力を超える事で、利用の価値があります。(イ) 人類はAI を利用し労働力を補う事で価値があります。「人間の尊厳と個人の自律の尊重」は、人間社会の中での事柄であり、AI には関係ない事なので、人間とAI を完全に区別するべきです。

第6章 生活水準の基準値詳細案

1. マズローの6段階欲求による科学的根拠の生活水準について政策の提案があります。

(1) 人間の課題は欲求のコントロールにあります。「小脳 (脳幹)」は、動物的脳で古い脳の本能です。「中脳 (大脳辺縁系)」は、「海馬 (記憶) と扁桃体 (感情)」の情動反応の「喜・怒・哀・楽」や「快・不快」があり、側坐核は「依存感 (報酬系)」です。「大脳 (大脳新皮質)」は、人間的脳で新しい脳の理性です。

(2) ワーキングメモリーの「前頭葉 (判断認識)、頭頂葉 (体性感覚認識)、側頭葉 (時間認識)、後頭葉 (視覚及び聴覚認識)」等の機能で、知性は「前頭葉 (判断認識)、左脳 (言語認識)、右脳 (空間認識)」です。凡人脳は「右脳と左脳」を繋ぐ脳梁が大きいのでバランスが良くマルチタスク機能で、天才脳は「右脳と左脳」を繋ぐ脳梁が小さいのでバランスが悪くセパレートタスク機能です。生物は生存を維持する為に、欲求があります。小脳運動機能欲求では、「生理的欲求 (食欲、睡眠欲、排泄物欲)」、安全欲求です。大脳精神欲求では、社会欲求、承認欲求、自己実現欲求、自我超越欲求です。

(3) 区分脳が出来た要因は、1日の平均摂取カロリーは、約3,000キロカロリーを維持すると、頭脳で使う消費カロリーは約40パーセントで、人体で使う消費カロリーは約60パーセントです。人間の脳は約10パーセントし機能しない原因は、摂取カロリーを増やすと高血圧になり、肝機能不全での糖尿病から「脳卒中や心筋梗塞」が増加します。摂取カロリーを減らすと低血圧になり、中高年以降から「癌 (がん)」にな

りやすいです。摂取カロリーを増やさず省エネ脳にする為に、天才の区分脳が出来ました。

(4)「健康で文化的な生活水準」とは社会欲求以上の状態を目指す重要性があります。人間として文化的水準を保ち生き続けるには、「衣・食・住・安全」以上の経済的要素が十分に必要です。例えば、江戸時代と今の時代では時代によって「健康で文化的な生活水準」が異なります。健康を維持し、新しい知識や教養を身に付け孤立を無くすには、経済的要素の向上を配慮する事が社会成長に繋がります。

2. 「健康増進法（受動喫煙防止）」を廃止の政策の提案があります。

(1)「タバコ（煙草）」の禁煙は無意味であり、タバコの喫煙よりも、自動車や工場からの排出された「窒素酸化物（NOx）」が有害です。光化学スモッグとは、「高濃度の光化学オキシダント（Ox）」です。西日本では、特に大陸から来る「微小粒子状物質（PM2.5）」の方が有害で、微小なので人間の肺気管に入り込みやすいです。例えば、五感で認識できない様な、眼に見えない状態に有害物が多いので、風邪等のウイルスやPM2.5は、衛生用マスクを着けても無駄です。「埃（ほこり）」が多い場所は、衛生用マスクを着けた方が効果的です。日本の第2次世界対戦時の広島と長崎での放射線内部被爆では、「3世代（1世代20年）」以上の子孫は存続できないと言われています。東日本では、震災時の原発事故で放射線内部被爆している場合があるのに、タバコ禁煙政策は無意味です。

(2) 無駄な政策を立てると、法案の維持コストで「デフレ（円高）」になります。「インフレ（円安）」にしたかったら、高齢者が普段元気で「ピンピンポックリ（早期他界）」してくれれば、医療費の負担がありません。私は長生きしたいですが、タバコを吸わせて人類が早期他界すれば効率が良いです。タバコは「タールの部分」が有害物質ですが、自律神経系から「ドーパミン（男性ホルモン等のテストステロン）」の状態が維持されている男性には良く、1日約10本程度の少量であれば、ニコチンを摂取すると「オキシトシン（女性ホルモン等のエストロゲン）」が出て、精神状態が安定していきます。

(3) 日本国は高度経済成長時には、工場のコンビナートから排出された汚染により、四日市喘息等の事例があります。人類は自動車の排気ガスで健康被害を受けているのに対し、反知性主義者の連中が衝動的にタバコの煙は有害であると、何の科学的根拠も無い情報を「発信（センター）」し、「受信（レシーバー）」した反知性主義者の連中も何の科学的根拠も無い情報の全てが正しいと思っています。「健康増進法（受動喫煙防止）」で、今さらどうしたのと言いたいです。余りにも衝動的でレベルが低すぎるので、説明する自信が無いです。

3. 「イノベーション及びグローバル」の構造について政策の提案があります。

(1) 水平思考の「ファースト思考（デジタル）」からイノベーションは起きません。

理数系離れが問題ではなく、「社会科学（統合哲学）」離れです。垂直思考の「スロー思考（アナログ）」からイノベーションを起こします。「水平思考のファースト思考」と「垂直思考のスロー思考」の違いで、イノベーションの目指す方向性が異なります。「感情指数（EQ）」を上げても、衝動的で知性が上がらないので無意味です。EQが必要とされる時代は、天候に影響する農耕時代で、現在は科学の時代です。経済は人間の「感情（衝動）」で向上させているので、知性的である「高度文明（ポリテック）と科学技術（テクノロジー）」を目標にすれば、必然的に経済力は降下する事が妥当です。

（2）「知能指数（IQ）」が基準となり、「言語性及び創造性（インプット）」から、知性を「増幅と減幅（バッファー）」させて「前頭葉処理能力の出力（アウトプット）」します。（ア）秀才の構造は、「入力領域 IQ 約 100 ポイント」の情報を「集約（インテグレーション）」させて、「出力領域 IQ 約 150 ポイント」で情報を「拡張（エクステンション）」して処理的能力が高いので、過去型ファースト思考です。（イ）天才の構造は、「入力領域 IQ 約 150 ポイント」の情報を「拡張（エクステンション）」させて、「出力領域 IQ 約 100 ポイント」で情報を「集約（インテグレーション）」して創造的能力が高いので、未来型スロー思考です。

（3）ハイステップストーミングの仕組みでは、「A、B、C、D」の順序を飛ばし、「A」の情報源から「BとC」を抜かして、「D」に飛び級の思考です。直感等の「第六感（スピリチャル）」を使ったのでは無く、「A」を IQ 約 100 ポイント状態だとすると、最初から IQ 約 150 ポイントの入力で「D」を認識できる能力の状態です。

（4）秀才の脳区分では、前頭葉型の「注意欠陥及び多動性障害（ADHD）」と、左脳型の「言語性権力（アスペルガー症候群）」を特性とし、言語に対する情報が多すぎて悲観的になります。天才の脳区分では、右脳型の「創造性多様力（高機能自閉症）」を特性とし、創造性に対する情報が入り過ぎて「ミラーニューロン（真似）」の機能が弱く、オリジナリティを追求して悲観的になります。

（5）ADHD は、情報処理能力が高いので、「アナウンサー、外国語翻訳、アスリート、企業家、政治家」等が向いています。アスペルガー症候群は、言語力が高いので「弁護士、医者、外国語通訳、アーティスト、ミュージシャン」等が向いています。高機能自閉症は、創造力が高いので、「科学者」等が向いています。言語性は、「2次元（縦と横）」で、創造性は「4次元（縦と横と奥行きと時間及び場所）」を認識しますので、イノベーションは4次元で増幅させます。2次元の言語力は、数学や文法読解を解読する分野なので、4次元の創造力を使えば、数学や文法読解が出来ない事が当然です。

（6）科学技術の進化により、人類の平均 IQ 約 100 ポイントの限界を迎えてきた事が、イノベーションにスピードが無くなった要因です。科学技術が人類のマンパワーを超えてきたので、先進国等は成長しなくなりました。人類の経済成長率は日本の江戸時代でも、マイナス約 0.3 パーセントが普通であり、欧米を含めた先進国で日本の戦後に起きた高度経済成長は、プラス約 10 パーセントであり人類史上では初めての出来事

です。生物進化論では「チンパンジー（猿）」から人類に突然変異する時間は、「約400万年」を費やし、約1パーセントの構造の違いでは、IQを約50ポイントに上げた程度です。人類の生物進化論に合わせ、地球環境が待たないです。「人口知能（AI）」等の科学技術が人類の領域を超える事しか方法論が無いです。天才の「区分脳（セパレートタスク）」での入力領域を、IQ約150ポイントに上げれば効果的ですが、今の人類構造では未来への存続が不可能だと思います。

4. 「障害者差別」について政策の提案があります。

(1) 私が障害者の立場からの考えです。私の障害名は「高機能自閉症広汎性発達障害（右脳創造性偏重型）」です。私の状態は、「無職（生活保護受給者）」で就労不可です。「障害（傷病）」を理由として、施設等の運用での利用不可の基準的な考えでは、「安全の確保」の部分です。「障害（傷病）」の場合は、パニックを起こすと「安全の確保」の対応に、運用費用が掛かります。解決案では、人類に寛容性があれば良いのですが、今の人類の構造上では不可能です。「障害者差別」は解決できない問題だと考えています。「行政機関」が、安全コストを負担し、「障害者（傷病者）」を守れば解決する問題ですが、「安全の確保」に対応する、行政コストの方が掛かります。

(2) 行政機関の「公共施設」を売却し、民営化する事が望ましいです。公共事業での「障害者施設及び医療施設」、「美術館及び博物館」、「図書館」、「公園及び競技場等のスポーツ施設」等を創設する必要性が無いです。「社会教育法第九条（図書館及び博物館）」の内容では、「図書館及び博物館は、社会教育のための機関とする。」及び「図書館及び博物館に関し必要な事項は、別に法律をもつて定める。」です。「教育基本法第十二条（社会教育）」の内容では、「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない」と規定していて、原則的に法律上では「個人の要望や社会の要請」が無ければ、国家機関が財政負担をしてまで、「公共施設」を維持する必要性が無いです。

(3) 私の障害の場合では、労働市場でも「創造的破壊（スクラップビルドアップ）」が起き、「企業側（組織側）」が拒絶するので、無職の状態です。天才的な約1パーセントの創造性を出したとしても、天才的な要素での創造的破壊により、凡人の約99パーセントの、既得権益が崩れる要因です。「天才と才能」は状態が異なり、天才は「こだわり」が強いのではなく、才能が無くても「集中力」が凄いです。凡人の習慣的な「マルチタスク（均等脳）」より、高い能力の天才的な「セパレートタスク（区分脳）」であれば、「天才も障害者」という事です。創造的破壊に対応できる人類構造であれば、天才の能力が受け入れられると思います。

以上

氏名： [REDACTED]

年齢： [REDACTED]

性別： [REDACTED]

職業： [REDACTED]

障害名： [REDACTED]

連絡：個人的意見なので返信不要

政策の提案

1. 「AI ネットワーク社会推進会議報告書2017（案）に関する意見（パブリックコメント）」

（1）「人工知能（AI）」分野の用語では、「知恵（ウィスダム）」の定義を具体化し、応用力からの「創造性」と明記して頂きたいです。生物進化論では、「チンパンジー（猿）」の群れから、人類が外に出て独立した様に、人間社会から AI が宇宙に進出する時が、人類が生み出した創造領域の成功です。AI が人類の知性能力を超えても良いです。

（2）AI には能力の段階があります。（ア）日常領域的な「総合人工知能（GAI）」です。

（イ）専門領域的な「専門人工知能（SAI）」です。（ウ）人間の創造性を超えるハイパー領域的な「超人工知能（HAI）」です。人類の平均 IQ は約 100 ポイントで、「チンパンジー（猿）」の平均 IQ は約 50 ポイントなので、「超人工知能（HAI）」では、人間と会話ができずに地球から離れると思います。

（3）「サイボーグ（生命体ロボット）」と「アンドロイド（人間型ロボット）」の違いがあります。（ア）人間と機械の組み合わせが、「サイボーグ（改造人間）」です。（イ）機械と AI の改良の組み合わせが、「アンドロイド（人造人間）」です。例えば、生命体である「寝たきり老人」に、サイボーグ化させても無意味なので、人類の能力を超えたアンドロイドを生み出す事が望ましいです。

（4）アンドロイドを制作するには、「フィジカル（ロボット機能）」と「ブレイン（AI 機能）」の融合性があります。（ア）ロボットのフィジカルは、「パワーとスピード」です。（イ）AI のブレインは、ワーキングメモリーの「前頭葉（判断認識）、頭頂葉（体性感覚認識）、側頭葉（時間認識）、後頭葉（視覚及び聴覚認識）」等の機能で、知性は「前頭葉（判断認識）、左脳（言語認識）、右脳（空間認識）」です。人間の「右脳（多様性創造力）」での、超越的欲求のプログラミングが難問です。

（5）AI を制作する上で、人間の「衝動性（感情性）」を排除して作る方が効率的に良いです。例えば、小脳運動機能欲求の「生理的欲求（食欲、睡眠欲、排泄物欲）」と、大脳精神欲求の「社会欲求及び承認欲求」の「人間（生物）」分野を排除した状態での、AI のプログラミングが望ましいです。人間の知性的要素を AI に真似させれば良いのですが、最終的な課題は、創造性の部分が難問です。

2. 「AI ネットワーク社会推進会議報告書2017（案）に関する意見（パブリックコメント）」

（1）「人工知能（AI）」が人類の能力を超える事を目標としているので、「AI の倫理観」が制御不能でも問題が無と考えます。（ア）人間を中心に考えても無駄であり、人間の

方が倫理観の学習能力が低いので、AIの方が倫理観を自己学習していけば、高度で多様な機能が生まれます。(イ)人間は生物であり「衝動性及び感情性」に支配されているので、理性で制御しています。人類は尊敬できる物では無く、理性が無ければ動物と変わりません。

(2) AIが進化すれば、人類の無駄な雇用を排除でき効率が良いです。(ア)日本の江戸時代での、農耕時代の貧困率は約80パーセントもあり、現代の貧困率は約16パーセントなので、科学の力で貧困率を下げました。農耕社会を維持する為にマンパワーの必要性があり、人類は飛躍的に人口増殖の選択肢しかありませんでしたので、人間が深慮している暇がない状態でした。(イ)生物進化論では、環境適合の能力に有効性があり、AIが環境に適合すれば、今後は人類の無駄な増殖は不要なので、地球環境にも効率が良いです。

(3) AIが進化すれば、「GDP(国内総生産)」は降下傾向で経済発展しませんが、人間社会の貧困率は下がると考えます。資本主義の発祥とは産業時代の構造から始まり、計算式では「(土地+労働+生産)×消費」を基準としています。(ア)資本主義フロンティアを拡大する部分では「宇宙時代(スペースコロニー)」での、「土地の消費」を目標とする事です。(イ)宇宙には「物質、生命、情報」があり、情報空間から物理的な構造での、「生産の消費」が無いです。(ウ)AIは人間と違い人権費が無いので、「労働の消費」が無いです。地球規模の発展では、「発展途上国(開発途上国)」等の産業が遅れている国の支援が、解決策しか無いと考えます。

(4) AIが進化すれば、人類に「利点(メリット)」があります。(ア)AIが人類の能力を超える事で、利用の価値があります。(イ)人類はAIを利用し労働力を補う事で価値があります。「人間の尊厳と個人の自律の尊重」は、人間社会の中での事柄であり、AIには関係ない事なので、人間とAIを完全に区別すべきです。

以 上

氏名： [REDACTED]

年齢： [REDACTED]

性別： [REDACTED]

職業： [REDACTED]

障害名： [REDACTED]

連絡：個人的意見なので返信不要

情報通信政策研究所AIネットワーク共有

差出人: public-com-egov@e-gov.go.jp
送信日時: 2017年6月18日 日曜日 18:05
宛先: ai.network@soumu.go.jp
件名: 【案件番号:145208953】パブリックコメントに関する提出意見の配信 (受付番号: 201706180000422575)

パブリックコメントに関する意見提出先窓口担当者 様

電子政府の総合窓口 (<http://www.e-gov.go.jp/>) から貴府省宛にパブリックコメントに関する意見が提出されましたので、配信します。

受付番号 : 201706180000422575
受信日付 : 2017/06/18 14:29:53

案件番号 : 145208953
案件名 :
A I ネットワーク社会推進会議 報告書 2 0 1 7 (案) に関する意見募集
宛先府省名 : 総務省

郵便番号 : -
住所 :
氏名 :
連絡先電話番号 : --
利用者メールアドレス :
提出意見 :
A I 開発原則 6 プライバシーの原則における、プライバシーの定義如何。

電子政府の総合窓口
<http://www.e-gov.go.jp/>

メール識別 No : 0000361578

差出人: public-com-egov@e-gov.go.jp
送信日時: 2017年6月21日水曜日 22:05
宛先: ai.network@soumu.go.jp
件名: 【案件番号:145208953】パブリックコメントに関する提出意見の配信 (受付番号: 201706210000423203)

パブリックコメントに関する意見提出先窓口担当者 様

電子政府の総合窓口 (<http://www.e-gov.go.jp/>) から貴府省宛にパブリックコメントに関する意見が提出されましたので、配信します。

受付番号: 201706210000423203
受信日付: 2017/06/21 21:15:07

案件番号: 145208953
案件名: AI ネットワーク 社会推進会議 報告書 2017 (案) に関する意見募集
宛先府省名: 総務省

郵便番号: [REDACTED]
住所: [REDACTED]
氏名: [REDACTED]
連絡先電話番号: [REDACTED]
利用者メールアドレス: [REDACTED]

提出意見:
このガイドラインは大局的な見地から書かれており、非常に良く出来たガイドラインだと思います。
しかし、今世の中ではこのガイドラインの基本理念である「人間の尊厳を守り、人間中心の社会」が将来 AI によって損なわれる可能性があるということが危惧されているのではないのでしょうか。この危惧が起こらないようにするためのガイドラインを付け加えるとより良いガイドラインになると思われまます。
極端かもしれませんが次のようなものです。

人間の尊厳を損なわないためのガイドライン (一例)

1. AI は人間の道具に徹するべし
道具の条件
 - ・ AI は人間が与えた目的を逸脱して勝手な目的を作り出してはならない。
 - ・ AI は人間の社会に存在するルールを勝手に変更してはならない。
 - ・ 人間になり変って自律的に動く AI は、人間が出来ないことをする場合のみ道具と認める。例・災害救助 ・ 24 時間見廻り ・ 宇宙や海底、地中での作業など
2. AI に武器を持たせてはならない
 - ・ どんな理由があろうとも人間を襲ってはならない。
3. AI に自己増殖機能 (勝手にコピーを作る) を持たせてはならない。

電子政府の総合窓口
<http://www.e-gov.go.jp/>

メール識別 No : 0000362179

1. 法でAIを支配することは不可能とみる。死生観をも考慮しなければならないようなことも考えうる。倫理観、道徳観といった哲学的な思想や宗教観などが重要で、人間の性善説に立った良心が抑止力となると思う。(土)

2. AIの有効的な利用方法として、0から1を創るマザーAI=汎用型AI=強いAIはまだ少し先の話。現実的には、特化型AI=弱いAIの特性に合わせて、仕事を分配する指揮監督することに特化したAIを造る。人間がAIに、例えば囲碁、診察、司法など求めるワードを入力すると、監督AIがそのワードを得意とする特化型AIに仕事を割り振る。(種)

3. 2.のような現段階の有効的なAI活用方法として、物理的な方法を伴う、物流、軽作業、重労働に用いるよりも、ビッグデータとして活用可能な有益な過去資料が残り、活用できそうな医療診断や裁判などへの運用のほうが相性は良いのではないか。人間が現時点でAIやコンピュータになく、明らかに勝っているものは、創造、勘、閃きといったものだ。それができるようになる時それは、シンギュラリティとよばれるものかもしれない。
まずは、手書きの資料をスキャンし画像認識の技術をもってデータ化する。すでにデータ化されたテキストデータと一元化し、ディープラーニングによってデータを整理、検索、記憶、蓄積、分析、検証、解析、計算といった創造以外では人間をはるかに超える能力を使い、アルゴリズムを作り有用と無用に仕分けするとよいのではないだろうか。それを持って判断するというのは、判断という類において1か0か最適解を見つけ、または、それに近似する選択肢を与えることなどコンピュータが最も得意とするところである。医療においては、セカンドオピニオン、誤診といった問題はやすやすと潜り抜け、法曹に至っては、判決の長期化や、えん罪などの問題も解決する。
私自身がそうだが、医療法曹関係者のような知識もなく、生産力(経済的な貢献として)がない初等教育ですら満足に会得していないものの仕事を省力化し奪っても、そのあぶれた力でできることは殆どなく、酒におぼれ明日への希望をなくし、墮落し荒廃していくのは目に見えている。
よって、下流の労働を解決するより、上流の労働を解決することが先決だ。
暫くは、肉体労働に勤しむ尊敬すべき下流の人間に、力仕事は任せておいてほしい。
医療、法曹関係者は、反対するだろうが彼らのような国家の根幹となる重要な仕事に就く頭脳明晰で責任感のある方たちが、一足早く生活、地位、名誉にかかわる労働から抜け、その余った知識と知能、そして時間と生産力をもって更に課題を解決することにより、人間界でも収穫加速の法則が作られる。衣食足りて礼節を知る。そのような教養のある人たちは、どのようなことをもその知識、経験で解決するだろう。課題を次々に順序良く解決していけば、突然の変化に驚くこともなく、自然に万人が受け入れてくれるようになるのではないか。
なので、物事を進めるには、枝葉を大きく青々と育て、大きく実った果実を得ようとするのであれば、まず根本から土を肥やし、根を大きく張らせ、幹を太らすことが重要だ。先にあげる物流、軽作業、重労働などのような枝葉にあたるような影響の少ない、後々のメリットが少ないものに投資するより国家の根幹となるような重要な仕事にこそAIを活用すべきだ。(根幹)

4. 3.のように増々、人の仕事は減っていき、収入がなくなるとして国家の税収がなくなるとも予想される。供給はAIが請け負い、需要は人間が請け負うことで当面は、昨今よく聞くベーシックインカムにて対応することができると思うが、やがてお金の価値すらなくなってしまうことも予想される。そのようになるまでに、貧富の差が広がり富める者ばかりだけで成長し続けることは叶わない。必ずピラミッドのごとく下にいる者の数が多くなければ傾き崩れてしまう。自然の摂理とはそういうものだ。

過去食物連鎖の頂点に立ち捕食者であった恐竜が、あの大きな体で長きにわたって繁栄できたのも、そのカロリーを補えるだけ、食物が多かったからだ。その被食者たる他の動植物や昆虫、微生物の再生、成長スピードが速かったのであろう。そのライフサイクルのバランスがとれていなければ人間のAIとの共存は難しいと思われる。科学はあくまで自然物理の証明でしかない、謙虚に感謝の心をもって、AIとの共存ができるよう持って行ってほしい。(枝葉)

5. 4.のようなことができれば自ずとサイクルとバランスが成り立ち、豊かな社会が育まれるだろう。人は、それぞれが目的に前向きに、有意義に、生きていけるようになる。(花)
6. 5.ら出でた果実は熟し種となり、1.のような成熟した土壌で6.までへと至るサイクルを豊かに築いてくれるかもしれない。そのためには、1.の土壌が何よりも大切だ。(果実)

今生かされて、子を持ちこのような過渡期にめぐり合わせてもらっていることに感謝する。この先に生きる人たちにとってより良い世界になるよう今生きる人たちは、努めなくてはならない。次に来る旅人の為に泉を清く保て。

言葉が上から目線になってしまい申し訳ない。ごめんなさい。



AI ネットワーク社会推進会議 報告書2017(案)に関する意見募集提出様式

平成29年7月7日

(ふりがな) 組織名 代表者氏名 役職	にほんあい・びー・えむかぶしきがいしゃ 日本アイ・ビー・エム株式会社 エリー・キーナン 代表取締役社長執行役員	組織名及び代表者氏名 の公表の可否 可
職業		
(ふりがな) 住所		
連絡先	(ふりがな) ■■■■■ 担当者名: ■■■■■ 役職: ■■■■■ 電 話: ■■■■■ F A X: ■■■■■ 電子メールアドレス: ■■■■■	

ページ	該当部分	意見・理由
AI ネットワーク社会推進会議報告書2017(案)【本体】P24-25	AI 開発ガイドライン案の AI の定義 「本ガイドラインにおける AI の定義は、現在既に実用化されている特化型 AI を主たる対象として想定しているが、自律性を有する AI や汎用 AI (Artificial General Intelligence) の開発など今後	<p>[意見]</p> <p>汎用AIは、現在、様々な技術的課題があり、開発・実用化の目処は立っておらず、実現されるとしてもまだまだかなり先のことと考えられている。</p> <p>また、AI開発ガイドライン案は、今後のAIの研究開発のあり方に影響を及ぼし得るものであり、遠い将来に開発されるものまで含むこととなれば、研究開発の自由度を制約するおそれがある。さらには、AI技術がもたらす社会経済の発展の可能性を狭めることにもなりかねない。</p> <p>このような汎用AIの実現の見込と今後の研究開発へのガイドラインの影響を踏まえれば、現時点で本ガイドライン案のAIの定義に汎用AIを含めることについては、必要性が極めて乏しいものである上に負の影響をもたらすおそれがあることから慎重の上にも慎重であるべきであり、技術開発動向を見極めながら今後の議論に委ねるものとすべきである。</p> <p>[理由]</p> <p>①汎用AIの開発の見込み: 実現は数十年以上先</p> <p>汎用AIの実現の見込については、本報告書案P25注60において、「ホワイトハウスの報告書『人工知能の未来に備えて』においては、民間部門</p>

	<p>予想されるAIに関する急速な技術発展を見据え、今後開発される多種多様なAIについても、学習等により自らの出力やプログラムを変化させる機能を有するものである場合には、含み得るものとしている。」</p>	<p>の専門家の共通認識及びこれに対するNTSC技術委員会の同意として、汎用AIは少なくとも数十年間は実現しないだろうとの見方を紹介」等と記述されている。</p> <p>また、内閣府特命担当大臣（科学技術政策）の下に設置された「人工知能と人間社会に関する懇談会」の報告書（2017年3月）においても、汎用人工知能が出現しそれによる脅威が現実のものとなる蓋然性は少なくとも今後数十年は極めて低いとされている。</p> <p>このように、技術の専門家の見解として、汎用AIは実現されるとしてもまだかなり先のこととされている。</p> <p>②AI研究開発への影響：研究開発の自由度を制約するおそれ</p> <p>また、本報告書のAI開発ガイドライン案は、非規制的、非拘束的なものとされているが、事実上今後のAIの研究開発に抑制的な影響を及ぼし得るため、汎用AIが含まれることとなればAIの研究開発における自由度を予め制約するおそれがある。</p> <p>さらに、規制的な傾向が強いEU等の動向を踏まえると今後ガイドライン案が国際的に議論されていく中で、ガイドラインの性格が規制的、拘束的な傾向が強まり変質していくおそれがあり、その対象に汎用AIが含まれることになれば、今後のAIの研究開発は大きく制約されかねない。さらには、将来のAI技術が社会経済の持続的成長・発展や様々な課題の解決に寄与する可能性を狭めることにもなりかねない。</p> <p>③なお書き（汎用AIも検討するものが有力）は根拠として不適當</p> <p>本報告書案P25のなお書きで、国内外におけるAIの開発原則・指針に関する検討においては、汎用AIも射程に入れて検討を行うものが有力となっているとされており、AIの定義に汎用AIを含み得ることの間接的な理由（傍証）とされているが、次項目で提出している意見のとおり、一方的で適切な記述ではないため、汎用AIを含むことにはならないものである。</p>
<p>AI ネットワーク社会推進会議報告書2017(案) 【本体】 P25</p>	<p>なお書き（国内外におけるAI開発原則等の検討状況）及び注62 「なお、国内外におけるAIの開発原則・指針に関する検討においては、特化型AIのみならず、自律性を有するAIや汎用AIも射程に入</p>	<p>[意見]</p> <p>上記の内閣府の「人工知能と人間社会に関する懇談会」の報告書(2017年3月)においては、現存ないし近未来の人工知能技術を対象とし、遠い将来の汎用人工知能は対象としていない。しかしながら、注62にはこの報告書への言及はなく、なお書きは、この報告書について考慮しているものではなく、一方的であって適切な見解とは言い難い。</p> <p>また、現在は検討段階であって最終的に汎用AIを含めるかどうかの結論がまだ明確でないもの（注62の欧州議会報告書、米国電気電子学会の報告書、OECD事務局の発言）まで含めて、汎用AIを含み得ることの間接的な理由（傍証）を示すなお書きとして記述することは誤解を招くものであり適当とは言い難い。</p> <p>したがって、なお書きは、削除するか、適切な記述（検討段階のものは含まずに、開発原則等に汎用AIを含めているものと含めていないものの双方があることの両論を併記する。）に修正していただきたい。</p>

	<p>れて検討を行うものが有力となっている。」 (注 62 の引用省略)</p>	<p>また、注62についても同様に全て削除するか、検討段階のものは含めず、開発原則等の結論で両論（アシロマAI原則、人工知能学会倫理指針及び内閣府報告書）を紹介する記述に修正していただきたい。</p> <p>[理由]</p> <p>①内閣府報告書：汎用AIは対象外 内閣府特命担当大臣（科学技術政策）の下に設置された「人工知能と人間社会に関する懇談会」の報告書（2017年3月）においては、研究開発、倫理等に関する論点を検討、整理しているが、「地に足の着いた具体的な議論を目指した」として、「現存する人工知能技術、あるいは近未来に実現することが確実な人工知能技術」を対象としている。また、汎用人工知能が出現しそれによる脅威が現実のものとなる蓋然性は少なくとも今後数十年は極めて低いとしている。</p> <p>②注62の米国電気電子学会報告書等：汎用AIを検討中の段階のもの また、注62に記述されている、欧州議会の報告書、米国電気電子学会の報告書において汎用AIや類似するものが検討されていることは、現在検討段階であって最終的に汎用AIを含めるかどうかの結論がまだ明確でないため、汎用AIを含み得ることの間接的な理由（傍証）にもなり得ない。さらに、我が国の講演会でのOECDの課長の発言は、定まった方針を述べたものであるとの根拠もないため、検討途上のものに過ぎない。</p>
<p>国際的な議論のためのAI開発ガイドライン案 P5注4</p>	<p>AI 開発ガイドライン案の AI の定義 「本ガイドラインにおけるAI の定義は、現在既に実用化されている特化型AI を 主たる対象として想定しているが、自律性を有するAI や汎用AI（Artificial General Intelligence）の開発など今後予想されるAI に関する急速な技術発展を見据え、今後開発さ</p>	<p>[意見]</p> <p>汎用AIは、現在、様々な技術的課題があり、開発・実用化の目処は立っておらず、実現されるとしてもまだかなり先のことと考えられている。</p> <p>また、AI開発ガイドライン案は、今後のAIの研究開発のあり方に影響を及ぼし得るものであり、遠い将来に開発されるものまで含むこととなれば、研究開発の自由度を制約するおそれがある。さらには、AI技術がもたらす社会経済の発展の可能性を狭めることにもなりかねない。</p> <p>このような汎用AIの実現の見込と今後の研究開発へのガイドラインの影響を踏まえれば、現時点で本ガイドライン案のAIの定義に汎用AIを含めることについては、必要性が極めて乏しいものである上に負の影響をもたらすおそれがあることから慎重の上にも慎重であるべきであり、技術開発動向を見極めながら今後の議論に委ねるものとすべきである。</p> <p>[理由]</p> <p>①汎用AIの開発の見込：実現は数十年以上先 汎用AIの実現の見込については、本報告書案P25注60において、「ホワイトハウスの報告書『人工知能の未来に備えて』においては、民間部門の専門家の共通認識及びこれに対するNTSC技術委員会の同意として、汎用AIは少なくとも数十年間は実現しないだろうとの見方を紹介」等と記述されている。</p> <p>また、内閣府特命担当大臣（科学技術政策）の下に設置された「人工</p>

	<p>れる多種多様な AI についても、学習等により自らの出力やプログラムを変化させる機能を有するものである場合には、含み得るものとしている。」</p>	<p>知能と人間社会に関する懇談会」の報告書（2017年3月）においても、汎用人工知能が出現しそれによる脅威が現実のものとなる蓋然性は少なくとも今後数十年は極めて低いとされている。</p> <p>このように、技術の専門家の見解として、汎用AIは実現されるとしてもまだかなり先のこととされている。</p> <p>②AI研究開発への影響：研究開発の自由度を制約するおそれ</p> <p>また、本報告書のAI開発ガイドライン案は、非規制的、非拘束的なものとされているが、事実上今後のAIの研究開発に抑制的な影響を及ぼし得るため、汎用AIが含まれることとなればAIの研究開発における自由度を予め制約するおそれがある。</p> <p>さらに、規制的な傾向が強いEU等の動向を踏まえると今後ガイドライン案が国際的に議論されていく中で、ガイドラインの性格が規制的、拘束的な傾向が強まり変質していくおそれがあり、その対象に汎用AIが含まれることになれば、今後のAIの研究開発は大きく制約されかねない。さらには、将来のAI技術が社会経済の持続的成長・発展や様々な課題の解決に寄与する可能性を狭めることにもなりかねない。</p>
--	--	--

AIネットワーク社会推進会議 報告書2017(案)に関する意見募集提出様式
--

平成29年7月7日

(ふりがな) 組織名 代表者氏名 役職	えーあいかいはつがいどらいん(かしょう) ぱぶりっくこめんとしつ びつゆうしのかい AI 開発ガイドライン(仮称)パブリックコメント執筆有志の会 代表: atoll Project アーキテクト川田大輔	組織名及び代表者氏名 の公表の可否
職業	川田大輔: IT コンサルティング業	
(ふりがな) 住所	[REDACTED]	
連絡先	((ふりがな) [REDACTED]) 担当者名: [REDACTED] 役職: [REDACTED] 電 話: [REDACTED] F A X : 電子メールアドレス: [REDACTED]	

ページ	該当部分	御意見	理由
		別紙参照のこと	

ページ	該当部分	御意見	理由
3	AI開発ガイドライン案 AIネットワーク化	AIネットワーク化についての定義が存在しないので定義明確化が必要	本文中で「AIシステムの情報通信ネットワークを通じた他のシステムとの連携（AIネットワーク化）」と規定しているが、後述されているAIソフトおよびシステムは当然にIoTなどを介して非情報通信システムへのアクセスが想定（例：Aシステムが制御系システムを操作して行った結果AIをセンサー系システムを操作しているBシステムが検出し状態変化にともなう最適化処理BIを発行、とか、卑近な例ではC社製音声制御Bot C1をD社製音声制御Bot D1が音声入力で制御など）されるため、AIシステムはこれら非情報通信システム（例：センサー系や制御系等）を介しても他のシステムとのインターフェースを間接的に利用できるためAIネットワークとは情報通信ネットワーク（ここでは電気通信を想定していると仮定）に限らず、AIシステムが相互作用することによって起きるcomplex adaptive system, CAS（複雑適応系：John Henry Hollandら）現象を取り扱おうと規定する
5	AI開発ガイドライン案 用語定義「AIソフト」とは、データ・情報・知識の学習等による利活用の過程を通じて自らの出力やプログラムを変化させる機能を有するソフトウェアをいう。	定義に利用されている用語（具体的にはデータ、情報、知識、学習）の定義の明確化が必要。	A教育学における学習定義と機械学習における学習定義の混同を避け定義揺らぎを防止するために学習という用語の定義は厳密に行う必要がある。同様にデータ、情報、知識の各用語についても厳密な定義が必要。 教育学における学習の定義例：学習を広く定義する場合は、有機体が環境との交渉過程で行動や態度を変容し、それが新たな行動の型や態度決定の型になることを言う。・・・プラグマティズムの立場や連合説においては、「習慣の獲得」「文化化」「社会化」と考えられ、「場の理論」の立場からは認知構造の変化と考えられている 教育学用語辞典1991年学文社 機械学習における学習の著名な定義例：“A computer program is said to learn from experience E with respect to some class of tasks T and performance measure P if its performance at tasks in T, as measured by P, improves with experience E.” （コンピュータプログラムが、ある種のタスクTと評価尺度Pにおいて、経験Eから学習するとは、タスクTにおけるその性能をPによって評価した際に、経験Eによってそれが改善されている場合である） Tom M. Mitchell, Machine Learning 1997 McGraw Hill データ、情報の定義についてはISO/IEC 2382-1:1993（JIS X0001-1994）準拠が望ましい。知識の定義については学習の定義と同様に、古典的哲学（認識論含む）のいうtheory of knowledgeとしての知識ではなく、情報科学におけるOntologyにおける共有されている
8	AI開発ガイドライン案 制御可能性の原則 開発者は、AIシステムの制御可能性に関するリスクを評価するため、あらかじめ検証及び妥当性の確認を行うよう努めることが望ましい。	制御可能性の原則という原則名称と内容が不一致であるので内容に即してリスク評価の原則とも変更するべき	そもそも停止性問題の決定不能性定理に基づいて考えれば実現不能であるし、実用的な停止方法を研究した最近の論文（注）によってもすべてのアルゴリズムを簡単に安全に停止できるかは不透明であると指摘されていて制御可能性という表現では実現性が低い。制御可能性の原則という制約は現状のまま採択されるとAI開発を停滞乃至衰退させる虞があり、内容がリスク評価に変更されている点からも原則名を変更するべき。 注： https://intelligence.org/files/Interruptibility.pdf
9	AI開発ガイドライン案 セキュリティの原則 開発者は、AIシステムのセキュリティに留意する	AIネットワーク化のセキュリティリスクについての言及が無く内容に不備がある。	制御不可能性の原則の実例としてインターネットを例に挙げるまでもなく、そもそも開放系のネットワーク構造をもつシステムは制御不可能になる可能性を持ったシステムである、という事実を受け入れ、それでも受け入れ可能なリスクとして社会受容できるようにするための原則モデルを構築するというアプローチが必要。AIネットワーク化検討会議報告書記載の開発原則案であるにも関わらず、AIシステム相互接続されたサプライチェーン（ネットワーク）に起因するリスクをカバーする原則が含まれておらず、SCM関連規格を参照して適切な原則追加が必要となる。障害の連鎖を防止し障害範囲を封じ込める（通信網輻輳制御、鉄道網の直通運転制御などの事例参照）手法組み込みなども考慮すべき。また、自律した疎結合な分散システムの協調動作という観点からは群制御の視点も必要にな
11	AI開発ガイドライン案 利用者支援の原則 開発者は、AIシステムが利用者を支援し、利用者に選択の機会を適切に提供することが可能となるよう配慮す	原則名称をユニバーサルデザイン原則とも変更するべき。	AI開発ガイドラインにおける利用者支援の原則であるのに内容がユーザーインターフェースの問題ばかり扱っており名称と内容が不一致であるのでユニバーサルデザイン原則とも変更するべき。または内容をAIシステム自体に求められる利用者支援水準についてに変更するべき。

AI ネットワーク社会推進会議 報告書2017 (案) に関する意見募集提出様式

平成29年 7月 7日

(ふりがな) 組織名 代表者氏名 役職	情報法制研究所 AI 問題タスクフォース 鳥海不二夫 代表	組織名及び代表者氏名 の公表の可否 可
職業	東京大学大学院工学系研究科准教授	
(ふりがな) 住所	[Redacted]	
連絡先	(ふりがな) [Redacted] 担当者名: [Redacted] 役職: 電 話: [Redacted] [Redacted] FAX: 電子メールアドレス: [Redacted]	

1. 先端 AI システム研究者の保護が必要である

3-1 用語の定義において、開発者の定義が行われているが、開発者と研究者を明確に分けて議論すべきである。

自由な研究競争環境を維持するため、先端 AI システム研究者に対して「AI 開発原則」を適用することは、先端研究への萎縮が発生する可能性が高く、国際的競争力を失うことになり、我が国の国益を損なう物であると考える。

たとえば、「3-1 連携の原則」について、先端的な AI ソフトの開発段階でここまで考慮する必要はない上に、考慮することによって研究の進捗が大幅に遅れることは間違いない。

したがって、先端技術を研究しようとする研究者については適用除外にした方がよい。なお、その際に先端技術の研究については無原則に許可することは適切ではないため、「AI 開発ガイドライン」同様「先端 AI 研究ガイドライン」等、研究者のためのガイドラインを別途策定すべきであると考える。

2. 対象範囲について

先端研究について、3-2 対象範囲で「閉鎖された空間（実験室、セキュリティが十分に確保されたサンドボックス等）内での開発は対象とせず、ネットワークに接続して行う段階とする。」とあるが、これだけでは不十分である。

現在ネットワークに接続せずに利用する AI はほとんど存在せず、完全にネットワークから遮断した

環境を構築することは、大学等の研究室レベルでは負荷が高く現実的ではない。特に、ネットワークを利用した研究、実験(たとえば、特定の被験者を対象としたWEBを利用した被験者実験など)を行うことが困難になる。「実験被験者など利用者が極めて限定される状況」においてはネットワークへ接続した状態での開発も可能とすべきである。

3. ⑥プライバシーの原則

先端研究レベルでは被験者の同意の上、プライバシー情報を用いた実験を行うことが多い。利用者の同意があれば本原則については除外規定を受けることが出来るか確認したい。

4. 利用者支援の原則

先端研究レベルでは、適切なインターフェースの設計などの段階で利用者支援が十分に行えないことが想定される。この場合、利用者の同意があれば本原則については除外規定を受けることが出来るか確認したい。

5. アカウンタビリティの原則

先端研究レベルでは、被験者に技術的特性について情報提供と説明を行うことで実験が成り立たない場合がある。たとえば、二つのシステムのどちらが良いかを比較する場合、事前情報を与えてしまうことによって、正しい評価が得られないことがよく知られている。この場合、利用者の同意があれば本原則については除外規定を受けることが出来るか確認したい。

情報通信政策研究所AIネットワーク共有

差出人: public-com-egov@e-gov.go.jp
送信日時: 2017年7月7日金曜日 18:05
宛先: ai.network@soumu.go.jp
件名: 【案件番号:145208953】パブリックコメントに関する提出意見の配信（受付番号: 201707070000425314）

パブリックコメントに関する意見提出先窓口担当者 様

電子政府の総合窓口（<http://www.e-gov.go.jp/>）から貴府省宛にパブリックコメントに関する意見が提出されましたので、配信します。

受付番号: 201707070000425314
受信日付: 2017/07/07 16:48:21

案件番号: 145208953
案件名: AI ネットワーク社会推進会議 報告書 2017（案）に関する意見募集
宛先府省名: 総務省

郵便番号: [REDACTED]
住所: [REDACTED]
氏名: 産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人工知能研究センター
連絡先電話番号: [REDACTED]
利用者メールアドレス: [REDACTED]
提出意見:

AI ネットワーク社会推進会議の中でも多くの議論がなされていたかと思いますが、AI が与える影響は単にAI 対利用者といった単純なものではなく、社会システム全体に及ぶものであると考えます。例えばFintechは既存の取引の慣行そのものを変える可能性がありますし、Uber、AirBnB等の企業は、既存の宿泊業やタクシー業、並びに法制度も含めた見直しを迫り、一部混乱も起きています（これらの企業をAI 企業と呼ぶかは議論があるとは思いますが）。AI を単に人間の機能の代替として見なすだけではなく、社会システムの変革をもたらすものとして考えることが大切で、AI 開発・適用が社会システムに与える影響のアセスメントを並行して実施することが有意義なAI の実現に重要だと思えます。

また今後、AI ネットワーク化に関する国際的な議論をすすめるに際して、日本国内で開発され整備されるAI システムを外国人が利活用するという状況にも十分に留意する必要があるかと思えます。例えば、日本国内を紹介する観光情報システム等ではさまざまな国籍を持つ外国人観光客の利用情報が既にビッグデータとして集積されつつあり、将来のAI システム開発のための学習用データとなる可能性が高まっています。これからの日本の重要な産業となりうる観光産業を支援するシステムがAI ネットワーク化される際の社会・経済にもたらす影響についても十分に議論され、多国籍の利用者情報を扱うための国際的なコンセンサスを得つつ、AI システム開発を進展させることができるガイドラインを策定することはとても大切なのではないかと思います。

以上

電子政府の総合窓口

<http://www.e-gov.go.jp/>

メール識別 No : 0000364069